

幼児ふれあい学習プログラム



京都府教育委員会

目 次

本書の刊行にあたって	1
学習プログラムの実施にあたって	2
プログラムの見方	3
第1章 幼児を知る	
プログラム1 家族・家庭の役割とはたらきを考えよう	4
プログラム2 幼い頃を振り返ろう	7
プログラム3 幼児期とはどんな時期だろう	
3-1 こんなに小さかったんだ	9
3-2 どんな気持ちかな	12
3-3 どんな生活をしているのかな	15
《資料》 伝承遊び・絵本を読むことの効果	18
3-4 遊び道具を考えよう	19
3-5 ひとりでできたよ	22
プログラム4 地域の子育て支援を知ろう	25
《資料》 子育てに関する施設等（京都府）	28
プログラム5 幼児の見えている世界	
5-1 幼児になってみよう	31
5-2 あぶないよ 大丈夫かな	34
第2章 幼児とふれあう	35
《資料》 はじめて幼児ふれあい体験学習を実施する場合の流れ	36
《資料》 職員会議資料・実施要項（例）	37
《資料》 受け入れ先への依頼文（例）	38
プログラム6 幼児ふれあい体験学習に向けて	39
《資料》 中学生が考える活動の例	42
《資料》 園児との遊びのヒント（例）	43
《資料》 ふれあい体験学習の流れ（例）	44
プログラム7 幼児ふれあい体験学習（実習）	47
～幼稚園・保育園・認定こども園を訪問しよう～	
プログラム8 幼児ふれあい体験学習（実習）	48
～ようこそ中学校へ～	
プログラム9 幼児ふれあい体験学習（ふりかえり）	50
その他の実践事例	
プログラム10 専門家から話を聞こう	53
プログラム11 赤ちゃんふれあい体験学習	
11-1 赤ちゃんふれあい体験学習（事前学習）	54
11-2 赤ちゃんふれあい体験学習（実習）	56
資 料 編	
① 国の各種統計資料	58
② 京都府の各種統計資料	62
③ 参考 HP アドレス一覧	65
本書の刊行に寄せて	66

本書の刊行にあたって

現在の日本において、少子高齢化は大きな課題となっています。少子化の進行には様々な要因が複雑に絡み合っていますが、未婚化・晩婚化もその要因の1つとしてあげられています。また、近年、中高生等の若者が、家庭や地域で乳幼児とふれあう体験が乏しくなり、結婚や子育てを、自らのキャリアプランに組み込んでイメージすることも難しくなってきました。

京都府教育委員会においては、高校生が家族を持つことや子どもを生ま育てることの意義を学び、自分の将来について考えることが重要だととらえ、平成28年3月、高校生を対象とした「子育て学習プログラム」を作成したところですが、この度、中学生を対象とした「幼児ふれあい学習プログラム」を作成しました。

本書は、中学校技術・家庭（家庭分野）の内容を中心に、第1章では幼児の成長や家族・家庭に関する学習を、第2章では幼児とのふれあい体験学習の事例（プログラム）を示し、各中学校の教職員が活用できる「幼児ふれあい学習プログラム」としています。その他の実践事例として、妊娠や出産に関する専門家の講話や、乳児とのふれあい体験学習の事例も示しています。生活の自立を目指す段階である中学生が、家族や周りの人に支えられて生活していることに気づき、家庭生活を主体的に考えたり、幼児の成長について学んだりすることができるプログラムとしています。また、他の教科や領域でも活用できるように、関連する教科や領域をタイトルの左に示しています。

本書が幅広く活用され、中学生が乳幼児とのふれあいを通して、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営むことの大切さや出産・子育てについて理解を深め、将来の希望を実現しようとする意欲や態度を形成するための一助となることを期待しています。

学習プログラムの実施にあたって

1 教員の留意事項

- (1) 連携先や講師と、授業のねらいや進め方について事前に十分な調整をしておく。
- (2) 外部会場等での実施にあたっては、安全な道順を下見し、移動手段や必要な引率者の人数等を確認しておく。また、所要時間も確認しておく。
- (3) 生徒の生育歴や家庭環境には十分に配慮する。(ひとり親家庭 等)
- (4) 特有の支援を必要とする生徒及び生徒の多様な考え方には十分に配慮する。(性的指向・性自認、性別役割分担意識等の特定の価値観の押付け 等)
- (5) 活動の様子を写真等で記録する際には、その使用目的や公開の可否について事前に協議し、個人情報の取り扱いについて十分配慮する。
- (6) 平成29年度の現行学習指導要領に基づいて作成しているため、学習指導要領改訂の際には、評価規準等を十分に確認する。

2 生徒への事前の指導事項

- (1) 乳幼児とふれあい体験学習を実施する際には安全面、衛生面に十分注意する。
- (2) ふれあい体験学習で知り得た個人情報の取り扱いには十分注意する。
- (3) ふれあい体験学習の実施にあたって、参加生徒への事前の体調管理を指導する。
- (4) 「あいさつは大きな声でしっかりする。」「丁寧な言葉づかいで話す。」等、一般的なマナーを指導する。

3 プログラム内容の問い合わせについて

TEL：075-414-5887（社会教育課社会教育主事）

プログラムの見方

プログラム



家庭

総合

保健

特別
活動

タイトル
～サブタイトル～

1. 本時の目標

【上記、アイコンの左端の教科に合わせて記入しています。】

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
【上記、アイコンの左端の教科に合わせて記入しています。】			

3. 展開例

【例を記入しています。実際の授業に合うように調整して下さい。】

指導内容	学習活動	指導上の留意点

※ 【このプログラムを実施するにあたっての配慮事項を記入しています。】

4. 授業実践のヒント

【このプログラムを実施するにあたってのヒントを書いています。必要に応じて活用して下さい。】

5. 準備物

【このプログラムを実施するにあたっての準備物を書いています。】

6. 参考資料 ワークシート

【このプログラムを実施するにあたってのワークシート等の例を掲載していますので、参考にして下さい。
また、記入例も掲載していますので、必要に応じて活用して下さい。】

※ プログラムによって、番号や項目が異なるものがあります。

第1章 幼児を知る

プログラム 1

家庭

道徳

家族・家庭の役割とはたらきを考えよう

～家族の一員としての自分～

1. 本時の目標

家族や家庭の基本的な機能について学ぶことを通して、家族や家庭の大切さについて考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	中学生が家族の一員としてできる家庭の活動について考え、工夫している。		家族・家庭の基本的な機能を理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認	○家族・家庭からイメージする言葉についてグループで意見を出し合う。	○配慮が必要な生徒について事前に把握しておく。
○家族・家庭の機能について	○家族・家庭の機能を分類し、家庭生活を支えるために、経済面、家族間の人間関係、地域との関わりについて、どのようなことが大切か考える。	○現在だけでなく、将来における家族・家庭の機能についても考えさせる。
○本時のまとめ	○自分が家族の一員としてできる活動について考える。	

※ 家族や家庭に関する内容を取り上げる際、生徒の育ってきた環境等に配慮し、仮定した家族を取り上げる等、内容や方法を十分に検討する必要がある。

4. 授業実践のヒント

- ・導入として、家族・家庭からイメージする言葉を、ワークシート①を使い、ピンゴゲーム等で交流してもよい。
- ・仮定したアニメやテレビドラマの家族のイラスト等を準備してもよい。

5. 参考資料 ワークシート①

年 組 番： 名前

連想しよう！

家族・家庭からイメージする言葉を24個考えて、
枠内に書き込みましょう。

		家族 ・ 家庭		

- ◎ 家族・家庭という言葉からイメージする言葉を24個記入しましょう。
- ◎ 思いつくものから、記入しましょう。

<まとめ・考えたこと>

<ワークシート①の使い方>

※ ビンゴを達成することが目的ではなく、家族・家庭への関心を深め、多様なとらえ方があることに気付かせる。

- ① 家族・家庭からイメージする言葉を24個、記入させる。3～5分程度
- ② 家族・家庭からイメージする言葉は、物、人、動物等が考えられるが、「人以外とする」や、「家庭で行われることをあげる」等の条件をつけてもよい。
- ③ 思いつくものから記入するよう助言する。
- ④ 時間内に全部埋まらなかったら、少し周りとの意見交換して、それを参考にして記入させる。
- ⑤ 順番に記入した言葉を一つずつ発表しあう。ビンゴゲーム方式で、出てきた言葉をチェックしていく。

◆「お父さん」「父親」「パパ」のように、違う言葉で、同じ意味を持つ言葉については、その都度確認します。

◆「だんらん」「みかん」「こたつ」のように、一つの言葉から広がることもあります。

◆「ペット」「庭の植木」のように、家庭のいろいろな言葉が出てくることもあります。



家庭

道徳

キャリア
教育

幼い頃を振り返ろう

1. 本時の目標

自分の成長の振り返りから、子どもが育つ上で必要なことや大切なことを理解することができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	子どもの成長と大人の役 割について考えている。		子どもの成長には大人の 支えが重要であることを 理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		○事前に、自分の成長に関する聞き取り ¹⁾ や資料集め ²⁾ をしておく。
○自分の成長に関わってきた人や物 と環境 ○グループ交流	○自分の成長を振り返り、自分の成長につながった人や物、できごとを思い出す。 ○子どもの成長には、多くの人が関わっていることに気付く。	
○まとめ	○子どもの成長と大人の役割について考える。	○家族・家庭だけでなく地域や社会の関わりが重要であることをおさえる。

- 1) 「聞き取り」…幼い頃の自分を知る身近な人にインタビューし、レポートにまとめておいてもよい。
- 2) 「資料集め」…母子健康手帳（親子健康手帳）、育児日記、写真などが活用できる場合は事前に準備させてもよい。

※ 家族や家庭に関する学習を取り上げる際、生徒の育ってきた環境等に配慮し、アニメやテレビドラマなど仮定した家族を取り上げる等、内容や方法を十分に検討する必要がある。

4. 授業実践のヒント

- ・幼い頃に流行したおもちゃ、テレビ番組、歌、イベントなどの思い出や、幼稚園や保育所等で流行した遊び等をグループで交流することを導入として取り入れてもよい。
- ・通過儀礼や誕生日、入学式などでの家族や身近な大人の思いを考えさせてもよい。
- ・ワークシート②に記入した中で、特に今の自分とつながっているものに印をつけさせてもよい。
- ・ワークシート②では、家族だけでなく、他の大人、仲間との関わりについても注目させる。

5. 参考資料 ワークシート②

年 組 番： 名前

自分の成長を振り返る



発達段階		人・物・遊び（おもちゃ）・できごと・思い出等
乳児期 幼児期 (1歳～)	幼稚園 保育所 等	
児童期	小学校	
青年期	中学校 }	

○自分の成長を振り返って気付いたことをまとめよう。

○子どもの成長と大人の役割について考えてみよう。

プログラム3 幼児期とはどんな時期だろう

プログラム **3-1**

家庭 **保健**

こんなに小さかったんだ ～幼児のからだを知ろう～

1. 本時の目標

幼児の体の発達の特徴について理解し、幼児と接する時、注意することについて考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	幼児と接する時、注意する点について考えている。		幼児の体の発達の特徴について理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○幼児と中学生の比較 ○体の発達 ○運動機能の発達	○幼児のくつや衣服などを、自分が身に着けているものと比較する。 ○幼児の体型、生理機能の特徴について考える。 ○自分自身の成長を振り返り、発達には一定の方向と順序、個人差があることを理解する。	○幼児と中学生のくつ、衣服などを使って大きさを比較できるようにする。
○まとめ	○幼児と接する時、どのようなことに注意すればよいか考える。	

※ 生徒の身長、体重の取り扱いには注意する。

4. 授業実践のヒント

- ・実際に体温や脈拍数などをはかって、幼児と中学生の違いを比較させてもよい。
- ・幼児の体型を、イラストで描かせてもよい。

5. 準備物

- ・幼児のくつ、Tシャツや靴下などの衣服
- ・体操服やジャージなど、中学生の衣服
- ・幼児の体型の特徴がわかる写真やイラスト



ワークシート③ 【記入例】

こんなに小さかったんだ ～幼児のからだを知ろう～

年 組 番： 名前

(1) 幼児と中学生の衣服などを比較して気付いたことをまとめよう。

(2) 幼児の心身の発達についてまとめよう。

○幼児期の身長と体重の発達

	身長	体重
生まれた時	約 (50) cm	約 (3) kg
1歳	約 (75) cm	約 (9) kg
4歳	約 (100) cm	約 (15) kg

○生理的機能

	体温	脈拍数
幼児	(36.6~37.3) °C	(15~20) 回/10秒
中学生	() °C	() 回/10秒

○上の2つの表から気付いたことをまとめよう。

〈例〉

- ・生まれてから1年間で身長が1.5倍（体重は3倍）になる。
- ・生まれてから4年間で身長が2倍（体重は5倍）になる。
- ・体温が高い。
- ・脈拍数が幼児の方が多い。

(3) 幼児の発達の特徴をまとめよう。

〈例〉

○体型

- ・手足が短く、全体的に丸い。
- ・身長に対して頭の割合が大きく、バランスが取りにくいために転びやすい。

○運動機能

- *発達には一定の順序がある。
例 首がすわる → おすわり → はいはい → つかまり立ち → つたい歩き → 一人で歩く
- *発達のスピードには個人差がある。

(4) ふれあい体験で幼児と接する時、どのようなことに注意すればよいか考えよう。

〈例〉

- ・同じ組（クラス）の幼児でも発達に個人差があることを覚えておく。
- ・転びやすいので、活動するときは周りの安全に気を付ける。

家庭

どんな気持ちかな

～幼児の心と言葉・社会性～

1. 本時の目標

幼児の心の発達の特徴を理解し、発達段階に応じた接し方を考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	幼児の発達段階に応じた接し方を考えている。		幼児の心の発達の特徴について理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○幼児の心の発達	○幼児の表情がわかる写真やイラストを用意して、どんな気持ちなのかを考える。 ○泣くことにも意味があることを理解する。 ○大人との関わりを通じて信頼関係を形成し、情緒、社会性、言葉が発達することを理解する。	
○まとめ	○発達段階に応じた接し方を考える。	

4. 授業実践のヒント

- ・発達段階に応じた幼児への接し方について、幼児とのふれあい体験と関連させて考えさせてもよい。
- ・第一次反抗期（自我の芽生え）、第二次反抗期の違いについて考えさせてもよい。

5. 準備物

- ・幼児の表情がわかる写真やイラスト

6. 参考資料 ワークシート④

どんな気持ちかな ～幼児の心と言葉・社会性～

年 組 番：名前

(1) 次の場面でどうして泣いているのか考えてみよう。

A



B



A	B
---	---

(2) 幼児の心の発達についてまとめよう。

○情緒の発達

○社会性の発達

○言葉の発達

(3) 発達段階ごとの特徴をまとめ、接し方を考えてみよう。

	特徴	接し方
1歳 ↑ ↓ 5歳		

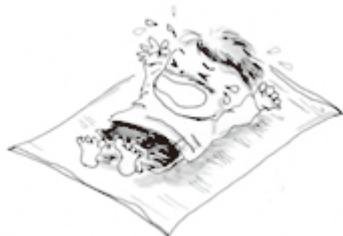
ワークシート④ 【記入例】

どんな気持ちかな ～幼児の心と言葉・社会性～

年 組 番：名前 _____

(1) 次の場面でどうして泣いているのか考えてみよう。

A



B



<p>A 〈例〉 お腹がすいた。怖い夢をみた。さみしい。 おむつが気持ち悪い。 虫に刺された。など</p>	<p>B 〈例〉 おもちゃがほしい。(貸してほしい。返してほしい。) たたかれて痛い。邪魔されていやだった。 など</p>
---	---

(2) 幼児の心の発達についてまとめよう。

○情緒の発達

<p>〈例〉 ・情緒とは喜び、愛情、悲しみ、心配など人や物に対して現れる心の動きのこと。 ・幼い頃は体全体で表現することが多い。成長に伴い、表情や言葉で表現し始めるようになる。</p>
--

○社会性の発達

<p>〈例〉 ・幼児期の社会性の発達として、相手に対する思いやりや協調性を身に付ける等がある。 ・家族など身近な大人との安心感を基に、外の世界と関わりを持つことで発達する。</p>
--

○言葉の発達

<p>〈例〉 ・言葉は自分の思いを表現して、人とコミュニケーションを取る手段である。 ・周囲の人とのやり取りを通して発達する。</p>

(3) 発達段階ごとの特徴をまとめ、接し方を考えてみよう。

	特徴	接し方
<p>1 歳</p> <p style="font-size: 2em;">↑</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p> <p>5 歳</p>	<p>〈例〉 人見知り</p> <p>自分の意思を持ち始める。 反抗期</p> <p>思いやりをもつ。 友達に合わせて行動できる。</p>	<p>〈例〉 ・発する言葉を繰り返したり、話の続きを促したり、じっくり聞く姿勢を大切にする。</p> <p>・幼児の気持ちを受け止められるよう、ゆったりとした気持ちで接する。</p>
	<p>一語文を話す。</p> <p>二語文を話す。</p> <p>日常会話ができる。</p>	

家庭

どんな生活をしているのかな

～幼児の生活と遊び～

1. 本時の目標

幼児の生活の特徴と遊びの意義について理解し、遊びで育つ力について考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	遊びで育つ力について考 えている。		幼児の生活の特徴と遊び の意義について理解して いる。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と内容の確認		
○幼児の生活と遊び	○中学生（自分）の生活を振り返り、 幼児の生活と比較する。 ○食事の回数（おやつも含む）、睡眠 時間、遊びの時間や回数を例に挙 げ、幼児の生活の特徴を理解する。 ○発達段階に応じた遊びを通してど んな力が育つか、具体例を挙げて 考える。 ○幼児にとっての遊びの意義を理解 する。	○睡眠時間、食事の時間などを色分 けさせる。
○まとめ	○幼児の生活と遊びについて、学ん だことをまとめる。	

4. 授業実践のヒント

- ・ 幼児のおやつ目的や回数、内容、量等について、中学生のおやつとの違いを比較させてもよい。
- ・ 伝承遊び（あやとり、こままわし、お手玉など）の体験を取り入れてもよい。

5. 準備物

- ・ 色鉛筆（色ペン）

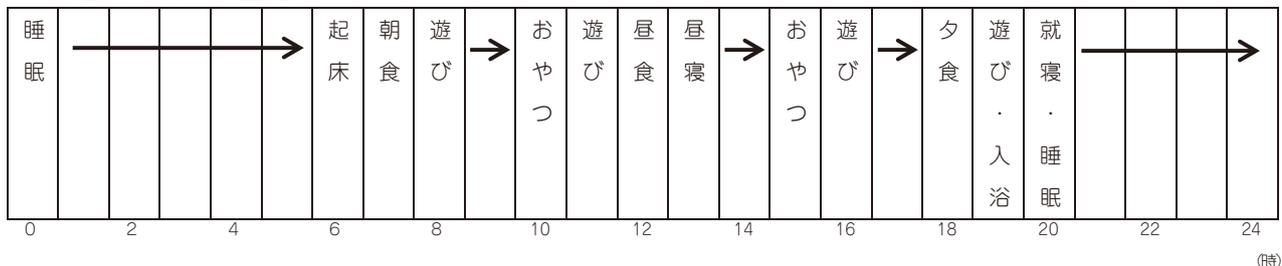
6. 参考資料 ワークシート⑤

どんな生活をしているのかな

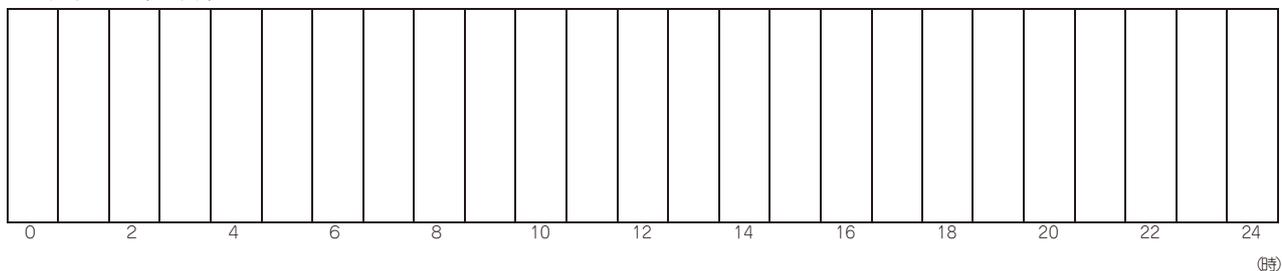
年 組 番：名前 _____

(1) 幼児と中学生の1日の生活を比較しよう。

○幼児（1歳）の生活



○中学生（自分）の生活



○幼児と中学生の生活を比較し、幼児の生活について気付いたことをまとめよう。

(2) 幼児の生活の特徴についてまとめよう。

(3) 遊びでどんな力が育つか、考えてみよう。

例1 : ごっこ遊び

例2 : ボール遊び



(4) 幼児にとっての遊びの意義についてまとめよう。

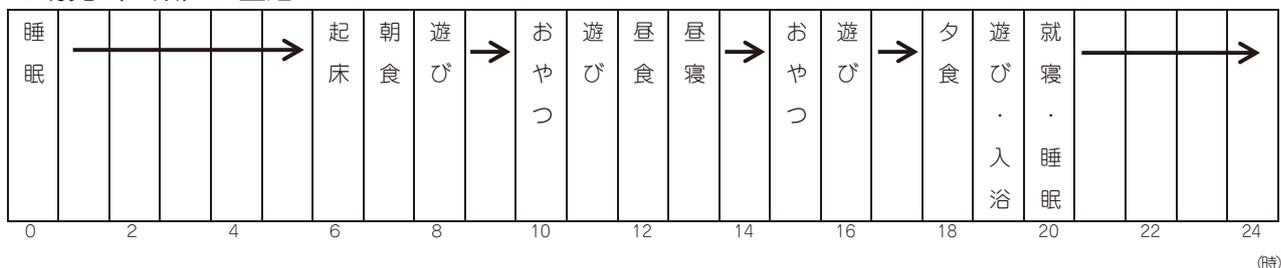
ワークシート⑤ 【記入例】

どんな生活をしているのかな

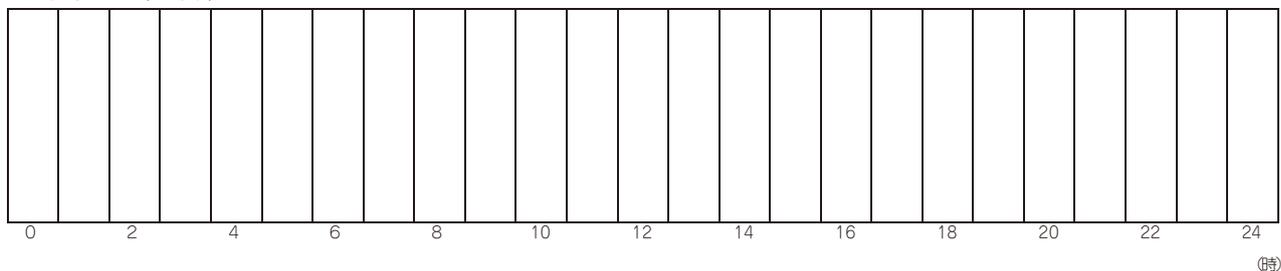
年 組 番：名前

(1) 幼児と中学生の1日の生活を比較しよう。

○幼児（1歳）の生活



○中学生（自分）の生活



○幼児と中学生の生活を比較し、幼児の生活について気付いたことをまとめよう。

〈例〉

- ・睡眠時間が長い。(昼寝をしている。)
- ・おやつの時間が(2回)ある。
- ・遊びの時間が長い。

(2) 幼児の生活の特徴についてまとめよう。

〈例〉

- ・幼児にとっておやつは食事の一部
- ・幼児にとって遊びは生活の中心

(3) 遊びでどんな力が育つか、考えてみよう。

〈例〉

例1：ごっこ遊び

- ・言葉で気持ちを表現する。
- ・まねをする。(役割を演じる。) など

例2：ボール遊び

- ・ボールをつかむ。投げる。(転がす。ける。)
- ・歩く。(走る。)



(4) 幼児にとっての遊びの意義についてまとめよう。

〈例〉

- ・遊びを通して、運動機能、情緒、社会性、言葉などが発達する。
- ・遊びは心身の発達や成長を促す。

《資料》 伝承遊び・絵本を読むことの効果

伝承遊び

- ・ 親から子、子から孫へと伝えられてきた遊びのことを伝承遊びといいます。
- ・ 伝承遊びには、集まった人数や場所に合わせて、何をして遊ぶのか、どうすればみんなで楽しめるか、子どもたちで相談しながら、工夫して遊べる良さがあります。
- ・ 例えば、こままわしやあやとり、けん玉、竹とんぼ、お手玉などがあります。



絵本を読むことの効果

理解力を育てる

絵本を見て、さらに文を読むことで絵本の内容を理解する力が育つ。

ことばを覚える

話を聞いたり、目で読んだりしていくうちにことばやその意味を覚える。

好奇心を育てる

絵本を通して未知の世界を知り、さまざまなものに興味をもつようになる。

想像力を高める

物語がどうなるかを想像することで、筋道にそった予測や推理の基礎になる。

読書に興味をもつ

絵本以外の本にも興味を持つようになり、読書の習慣が付きやすくなる。

集中力を育てる

読み聞かせをしてもらうことで、人の話を続けて聞くことができるようになり、集中力がつく。

出典：株式会社正進社「技術・家庭 幼児の生活ノート 幼児の生活と家族」P17より



家庭

遊び道具を考えよう
～幼児の遊びと遊び道具～

1. 本時の目標

遊び道具の役割について理解し、発達段階に応じた遊び方を考え、工夫することができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	発達段階に応じた遊び方について考え、工夫している。		幼児にとっての遊び道具の役割について理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と内容の確認		
○遊びで育つ力	○遊び道具の役割について理解する。 ○発達段階に合わせた遊び道具の選び方、遊び方を考える。 ○身近なものを使ってどんな遊びや遊び道具ができるか考える。	○遊び道具づくりの計画を立てさせる。 ○安全面や衛生面についても、幼児の立場で考えさせる。
○まとめ	○幼児が遊ぶ時、注意しなければならないことについてまとめる。	

4. 授業実践のヒント

- ・ふれあい体験に向けて、訪問先の子どもの年齢を設定し、遊び道具づくりの計画を立てさせてもよい。（訪問先と連絡をとり、遊ぶ場所や内容、時間などを確認しておくもよい。）【プログラム6 参照】
- ・遊び道具を作る材料として、自然のものや身近なもの（葉っぱ、どんぐり、ペットボトル、新聞紙、牛乳パックなど）を利用してもよい。

5. 準備物

- ・遊び道具づくりに必要な材料



新聞紙などを利用した輪投げ



ペットボトルを利用したポウリング
(新聞紙、古着、フェルトでボールを作る)

6. 参考資料 ワークシート⑥

遊び道具を考えよう

年 組 番：名前 _____

(1) 遊び道具の役割についてまとめよう。

(2) 遊び道具を選ぶポイントをまとめよう。

(3) 身近なものを使って作る遊び道具を考えてみよう。

材料	アイデア	安全面、衛生面で気を付けること
牛乳パック 		
ペットボトル 		
新聞紙 		

(4) 幼児が遊ぶ時、注意しなければならないことをまとめよう。

ワークシート⑥ 【記入例】

遊び道具を考えよう

年 組 番：名前

(1) 遊び道具の役割についてまとめよう。

〈例〉

- ・遊びのきっかけになる。
- ・イメージを広げ、そのイメージを人と共有して一緒に遊ぶことで遊びを豊かにする。
(市販されているもの以外にも、石、木、空き箱、手指や顔、体、言葉なども遊び道具になる。)

(2) 遊び道具を選ぶポイントをまとめよう。

〈例〉

- ・幼児の心身の発達段階にふさわしいもの
- ・遊びを工夫し発展できる(いろいろな使い方ができる)もの
- ・安全で丈夫なもの など

(3) 身近なものを使って作る遊び道具を考えてみよう。

材料	アイデア	安全面、衛生面で気を付けること
牛乳パック 		
ペットボトル 		
新聞紙 		

遊び道具を作るアイデアに対して、安全面、衛生面で気を付けることを考えて記入させる。

〈例〉

- ・幼児が触ったり口に入れたりすることも想定して、(絵を描くのに使う) マーカーや、(貼り付けに使う) 接着剤を選ぶ。
- ・幼児が乱暴に扱うことも想定した強度にする。
- ・牛乳パック、ペットボトルを洗って、よく乾かしておく。

(4) 幼児が遊ぶ時、注意しなければならないことをまとめよう。

〈例〉

- ・安心して遊べるように周りの環境を整える。
- ・成長に応じて友達と関わりながら遊ぶこと、屋外で体を動かして遊ぶこと、自然に触れて遊ぶことも大切である。
- ・テレビなどを長時間見ることのないように周りの大人が注意する。

家庭

ひとりでできたよ

～幼児の生活習慣～

1. 本時の目標

幼児の生活習慣の習得について理解し、幼児の意欲を育てる方法を考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	幼児の意欲を育てる方法について考えている。		生活習慣を身に付けさせる重要性とそれを支える家族の役割について理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と内容の確認		
○基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○お箸を使って食べられるようになるまでの過程を考える。 ○基本的な生活習慣、社会的な生活習慣について理解する。 ○生活習慣を身に付けさせるための家族や周りの人の役割について理解する。 	○幼児と中学生のくつ、衣服などを使って大きさを比較できるようにする。
○まとめ	○幼児の意欲を育てる方法を考える。	

4. 授業実践のヒント

・失敗をした時、うまくできなかった時、幼児にどんな言葉かけをしたらよいか、幼児とのふれあい体験にも結び付けられるように具体的な例を挙げて考えさせてもよい。

5. 準備物

・食事に関わるイラスト（食べさせてもらう → 手づかみ → スプーンを使う → 箸を使う）

6. 参考資料 ワークシート⑦

ひとりでできたよ ～幼児の生活習慣～

年 組 番：名前

(1) お箸をどのように使えるようになったか考えてみよう。



① 食べさせてもらう → ② () → ③ () → ④ 一人でお箸が使える

(2) 生活習慣についてまとめよう。

○基本的な生活習慣

--

○社会的な生活習慣

--

○生活習慣を身に付けさせるための家族や周りの人の役割をまとめよう。

--

○次のような場面で、幼児が自分でしようとする気持ちを育てるためにどんな言葉かけや環境を整えたらよいか考えよう。

	言葉かけ、環境の整え方
①服を着ようとする時	
②歯みがきや手洗いをする時	

ワークシート⑦ 【記入例】

ひとりでできたよ ～幼児の生活習慣～

年 組 番：名前

(1) お箸をどのように使えるようになったか考えてみよう。



① 食べさせてもらう → ② (手づかみ) → ③ (スプーン、フォークを使う) → ④ 一人でお箸が使える

(2) 生活習慣についてまとめよう。

○基本的な生活習慣

- 〈例〉
- ・ 食事
 - ・ 睡眠
 - ・ 排せつ
 - ・ 衣服の着脱
 - ・ 身の回りの清潔

生きていく上で欠かせない生活行動のこと

* 基本的な生活習慣を身に付けることは幼児の健康的な発達につながり、自立した生活の基礎となる。

○社会的な生活習慣

- 〈例〉
- ・ 対人関係についての習慣 (あいさつをする。順番を守る。など)
 - ・ 社会生活のきまりを守る習慣 (ごみはごみ箱に捨てる。公共の乗り物で騒がない。など)
 - ・ 安全の習慣 (道路に飛び出さない。信号を守る。など)

社会的な約束事やマナーのこと

○生活習慣を身に付けさせるための家族や周りの人の役割をまとめよう。

- 〈例〉
- ・ 幼児は、家族や周囲の人のまねをして身に付けていくので、見本を見せる。
 - ・ 幼児の心身の発達に合わせて、ていねいにくり返し教える。
 - ・ 「自分でやりたい」という気持ちを尊重し、楽しみながら身に付けられるように援助する。

○次のような場面で、幼児が自分でしようとする気持ちを育てるためにどんな言葉かけや環境を整えたらよいか考えよう。

	言葉かけ、環境の整え方
①服を着ようとする時	<p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単なことから少しずつさせてみて、できたことをほめる。など
②歯みがきや手洗いをする時	<p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗面台に届くように台を置く。家族も一緒にやって手本を見せる。など

家庭

社会

地域の子育て支援を知ろう

～すこやかな成長のために～

1. 本時の目標

地域の子育て支援を理解し、活用方法を考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	子育て支援の活用方法について考えている。		地域の子育て支援について理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○地域の子育て支援 ○グループワーク	○地域の子育て支援の施設や事業の目的や内容を理解する。 ○地域にある施設を考える。 ○施設や事業の活用方法について考える。	○グループワーク後、発表させ、意見を交流する。 ○様々な活用方法があることに気付かせる。
○まとめ	○子どもの成長と地域の関わりについて学んだことなどをまとめる。	

4. 授業実践のヒント

- ・ワークシートは、はじめに（1）の施設を挙げ、それらを参考に（2）を考えさせる。
- ・ワークシート（2）①～③の項目は教科書にあるものや、地域の実態等を考慮して適切な内容を扱うこともできる。
- ・各市町村の施設や子育て支援事業を事前にホームページ等で調べておく。
- ・具体的な事業（図書館での紙芝居、検診の内容、幼稚園や保育所等の募集案内、小児科の夜間診療等）を紹介してもよい。

5. 参考資料 ワークシート⑧

地域の子育て支援を知ろう

年 組 番：名前

(1) 子どものための施設は何があるだろう。

<p>①健康や成長を支える施設や事業</p> <p>②保護者と幼児の交流や遊びの場を提供する施設</p> <p>③保育や教育を行う施設</p>	<p>地域にある知っている施設・利用したことがある施設の名前を書いてみよう。</p>
---	--

(2) ①～③のような場合、(1)で挙げた施設を参考にどこに相談すればよいかグループで考えよう。

<p>①子どもが夜、寝てくれないため困っている。</p> <p>②同じ地域で子育てをしている人と情報交換をしたい。</p> <p>③仕事からの帰りが遅くなりそうで、保育所のお迎えの時間に間に合いそうにない。</p>

(3) 今日の授業で学んだこと、施設の活用方法について考えたことを書きましょう。

ワークシート⑧ 【記入例】

地域の子育て支援を知ろう

年 組 番：名前

(1) 子どものための施設は何があるだろう。

<p>①健康や成長を支える施設や事業 〈例〉 病院、保健所、保健センター、子育て支援センター、 保健師訪問・検診 など</p> <p>②保護者と幼児の交流や遊びの場を提供する施設 〈例〉 保健センター、子育て支援センター、児童館、図書館、 子育てサークル など</p> <p>③保育や教育を行う施設 〈例〉 幼稚園、認定こども園、保育所、児童館、 放課後児童クラブ、ファミリー・サポート・センター など</p>	<p>地域にある知っている施設・利用したことがある施設の名前を書いてみよう。</p>
---	--

(2) ①～③のような場合、(1) で挙げた施設を参考にどこに相談すればよいかグループで考えよう。

<p>①子どもが夜、寝てくれないため困っている。 〈例〉 病院、子育て支援センター</p> <p>②同じ地域で子育てをしている人と情報交換をしたい。 〈例〉 児童館、子育てサークル、子育て支援センター</p> <p>③仕事からの帰りが遅くなりそうで、保育所のお迎えの時間に間に合いそうにない。 〈例〉 ファミリー・サポート・センター、子育て支援センター</p>
--

(3) 今日の授業で学んだこと、施設の活用方法について考えたことを書きましょう。

《資料》子育てに関する施設等（京都府）

地域子育て支援拠点（地域子育て支援センター等）

地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを推進することを目的に、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点を設置している。

〈内容〉

- ・ 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・ 子育て等に関する相談・援助の実施
- ・ 地域の子育て関連情報の提供
- ・ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 など

参考：『地域子育て支援拠点 [子育て支援情報未来っ子ひろば]』（京都府）
http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/ouen_19shisetsu04.html

ファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターは市町村が設立、運営している。急用や病気、残業や休日出勤などに地域の人がこたえる、子どもを「預けたい人」と「預かる人」のネットワークをつくり、地域で子育てについて助け合う会員組織である。

〈内容〉

- ・ 保育施設までの送迎と預かりを行う。
- ・ 買い物等外出の際、子どもを預かる。
- ・ 保育施設の開始前や終了後、子どもを預かる。
- ・ 冠婚葬祭や、他の子どもの学校行事の際、子どもを預かる。 など

参考：「ファミリー・サポート・センターのご案内」（京都府）
<http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/famisapo/famisapo-top.html>

保健センター

保健センターは特別区や市町村が設置する行政機関で、乳幼児や妊婦、成人、高齢者等を含め全ての年代における、幅広い健康レベルの地域住民を対象とし、住民に身近で当該地域に根ざした保健・福祉の総合的な相談や地域づくりを担っている。乳幼児検診や子育て支援等、市民向けの様々な健康づくり事業などがある。

参考：「保健師の活動の場」（一般社団法人 全国保健師教育機関協議会）
<http://www.zenhokyo.jp/foryou/katsudou.shtml>

※ 保健センターの業務内容等については、各市町村のホームページ等で確認して下さい。

保健所

保健所は都道府県・特別区・指定都市（地方自治法による）・中核市（地方自治法による）・政令市（地域保健法による）が設置する行政機関で、市町村保健師と連携して当該地域全体の健康問題把握調査を行い、地域のケアシステムを構築したり、対策を講じたりしている。所管する都道府県等の自治体の健康課題に関わる施策の運営や管理等に携わるなど、広域的で専門性の高い業務を行う点に特徴がある。

参考：「保健師の活動の場」（一般社団法人 全国保健師教育機関協議会）
<http://www.zenhokyo.jp/foryou/katsudou.shtml>

《京都府の保健所一覧》

保健所名	所管地域
乙訓保健所	向日市・長岡京市・大山崎町
山城北保健所	宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町
山城北保健所 綴喜分室	井手町・宇治田原町
山城南保健所	木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村
南丹保健所	亀岡市・南丹市・京丹波町
中丹西保健所	福知山市
中丹東保健所	舞鶴市・綾部市
丹後保健所	宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町

参考：「保健所 [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府）
http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/ouen_10hokenjyo.html

子育てサポートセンター

保育所や私立幼稚園に設置され、その専門性を生かして子育てや教育相談を行っている。

また、子育てサポート啓発や地域の子育て力向上のため地域団体と連携した保育の実施などを行っている。

【子育てサポートセンターにおける未入园児一時保育事業】

子育てサポートセンター事業に取り組んでいる一部の保育所・認定こども園では、家庭で育児をしている方が不安の軽減やリフレッシュできるよう、保育所に登録した保護者に子育てに関する情報提供、育児教室等の開催と一時預かりのサービスを提供する事業を実施している。実施内容は、保育所によって異なるが、一時預かりについては、おおむね3歳未満の子どもを家庭で育児している方を対象に、登録した保育所で、年間2回、無料（一部実費負担あり）で利用できる。

参考：「子育て支援サービス [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府）
<http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/1331182712337.html>

児童館（児童センター）

児童館は、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする児童福祉施設である。集会室・遊戯室・図書室等を設け、いろいろな遊具を備えている。

また、「児童厚生員」という専門の職員がいて、遊びや子育てに関する知識を教えてくれる。

参考：「子育て支援サービス [子育て支援情報 未来っ子ひろば]」（京都府）
<http://www.pref.kyoto.jp/kosodate/1331182712337.html>

各施設の事業内容等については、各市町村で異なる場合があります。事業の有無や、内容については各市町村のホームページ等で確認して下さい。

プログラム5 幼児の見える世界

プログラム **5-1**



幼児になってみよう

1. 本時の目標

幼児の疑似体験を通して幼児の心身の発達を理解し、適切な関わり方について考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	幼児の発達に応じた関わり方について、疑似体験したことを活かして考え、工夫している。		幼児の心身の発達の特徴を理解している。

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○幼児の疑似体験 ①目線 ②視界 ③口の大きさ ④指 ○グループ交流	○教室内をしゃがんで歩き、見え方の違いを実感する。 ○しゃがんでいる前後にペアに立ってもらい、幼児から見た中学生の大きさを実感する。 ○チャイルドビジョン（幼児視野メガネ）を用い、視界の狭さを実感する。 ○チャイルドマウスに身の回りに入るものを入れ、誤飲により喉に詰まる危険性を理解する。 ○軍手を二重にはめて、ボタンをとめたり折り紙をしたりして、指先の発達を理解する。 ○体験をもとに、幼児に接するときやおもちゃづくりでの注意点をグループで話し合う。	○体験を通して、幼児ふれあい体験での注意事項や関わり方につなげる。
○まとめ	○幼児とふれあう際の配慮事項を自分の言葉でまとめる。	

4. 授業実践のヒント

- ・全ての体験をする時間がない場合は、いずれかを選択して行ってもよい。
- ・【プログラム5-2】と関連を図って指導するとよい。

学習プログラム
にあたって

プログラムの
見方

第1章
を知る

第2章
ふれあう

その他の
実践事例

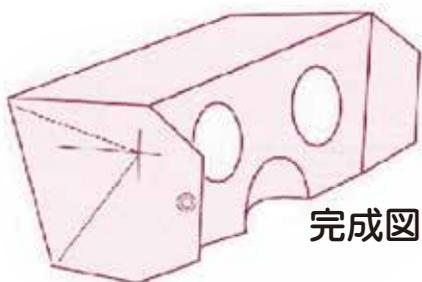
資料
編

5. 準備物

- ・チャイルドビジョン（幼児視野メガネ）
- ・チャイルドマウス
- ・軍手
- ・ボタン、ミニカーなどの小さいおもちゃ、ティースプーンなど、チャイルドマウスで使用する小さいもの

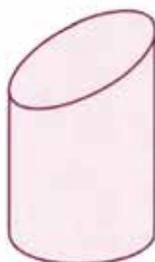
6. 参考資料

チャイルドビジョン



* 原寸大の型紙はインターネット上に掲載されています。

チャイルドマウス



完成図



出典：『子どもを事故から守るプロジェクト』作ってみよう！-事故防止に役立つ体験・教材・資料』（消費者庁）
http://www.caa.go.jp/kodomo/classes/pdf/c00004_s3.pdf

《資料》『消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書【概要】 -玩具による乳幼児の気道閉鎖事故-』より（平成29年11月20日）

玩具による誤嚥事故がどの程度の月年齢、どのような玩具で発生しているかについて、保護者へのアンケート調査では、3歳未満の乳幼児、特に生後6か月から1歳6か月未満に多く発生しているという結果であった。また、玩具の種類については、「ビー玉・おはじき」が最も多く、次に「ビーズを使った玩具」、「小さなボール」が多かった。大きさは、「6～10mm」が最も多く、次に「11～20mm」、「0～5mm」が多かった。形状は「どの面から見ても同じ大きさの物（球形・立方体等）」が最も多く、次に「平べったい物」が多いという結果であった。

引用：『消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書【概要】-玩具による乳幼児の気道閉鎖事故-』（消費者庁）
http://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_013/pdf/report_013_171120_0001.pdf

ワークシート⑨

幼児になってみよう

年 組 番：名前

(1) 自分が体験して感じたことを書こう。

① 目 線 …… シャガんで歩く

② 視 界 …… チャイルドビジョン

③ 口の大きさ …… チャイルドマウス

④ 指 …… 軍手をはめる

(2) 今日の学習と関連させて、ふれあい体験で注意する点を考えてみよう。

家庭

保健

安全
教育

あぶないよ 大丈夫かな

1. 本時の目標

家庭内の安全について幼児に視点をあてて考えることができる。

2. 評価規準（例）

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
	幼児の安全で快適な室内環境の整え方について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。		

3. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認	○幼児の身体の特徴を確認する。	○家庭内の安全について考える中で、ここでは幼児に視点をあてて考えさせる。
○危険の状況把握と対策の例	○教科書のイラストなどを活用し、危険箇所を挙げる。 ○安全対策を考える。	○疑似体験の一部を、ここで実践してもよい。
○まとめ	○安全な室内環境について、幼児の視点でまとめる。	

4. 授業実践のヒント

- ・住まいの安全の学習と関連させて指導してもよい。
- ・幼児だけでなく高齢者にも視点をあて、身体の特徴と危険箇所を確認させてもよい。
- ・ユニバーサルデザイン、家庭内事故死亡率、支援を必要とする人、災害時に幼児に配慮することなどを考えさせてもよい。

5. 参考図書

「ヒヤリハットさんちへいってみよう！」（ミサワホーム総合研究所）

第2章 幼児とふれあう

プログラム 6~9

1. 題材 幼児とふれあう

2. 題材の目標

- ・ 幼児とふれあう活動を通して、幼児に関心を持ち、適切に関わることができる。
- ・ 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、学習したことを関連させて考え、工夫することができる。
- ・ 自分の課題に基づいて、活動に取り組むことができる。

3. 題材の評価規準（例）

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
幼児とふれあう活動を通して、幼児に関心を持ち、適切に関わろうとしている。	体験したことを、学習したことと関連させて考え、工夫してまとめている。	ふれあい体験の課題や計画に基づいて、安全に配慮して幼児とふれあうことができる。	ふれあい体験を通して幼児の発達や生活習慣について、理解している。

4. 実践のヒント

- ・ はじめて実施する場合は、受け入れ先との綿密な連絡が必要である。
- ・ 地域との連携を踏まえた指導方針を、受け入れ先と共通理解することも大切である。
- ・ 中学校が受け入れ先と年間を通じて関わりのある場合は、交流できる機会を活用し、日常的に連携を図るとよい。

5. 実施形態（例）

- ・ 設定保育に入る。（園児が普段している活動を中学生が補助したり、自由遊びで一緒に遊んだりする。）
- ・ 中学生主導で活動を行う。（中学生が活動内容を考え、一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをしたりする。）

事前学習に向けて

●設定保育に入る場合

- ・ 事前の打ち合わせで、中学生が幼児と一緒にどのような活動をするのか、その内容について聞いておき、生徒に伝える。
例) 着替えの補助、製作活動の補助、練習の補助、自由遊び、行事への参加など

●中学生主導で活動を行う場合

- ① 発達年齢に応じた活動や内容を考える。
 - ・ 中学校から2学級以上が訪問する場合、内容が重ならないようにする。
- ② いくつかの静的な活動、動的な活動をふれあう時間に応じて組み合わせる。【P42 参照】
- ③ 活動内容については訪問先施設との連絡調整を行う。
 - ・ 打ち合わせ内容をもとに、やってほしいことや困ること等を、事前に生徒に伝える。
 - ・ 生徒の計画についても、事前に施設に伝えておく。
- ④ 学級の班活動と連携させ、協力して取り組ませる。
- ⑤ 生徒と教師が見通しを共有して取り組む。
- ⑥ 材料や用具など、事前に確認し、借用及び購入の計画を立てる。

《資料》はじめて幼児ふれあい体験学習を実施する場合の流れ (11月に実施する場合)

年度初め (前年度末)

- ・ 幼児ふれあい体験学習の実施及び受け入れ先について、管理職に学習指導計画をもとに相談する。
- ・ 幼児ふれあい体験学習生徒の受け入れについて、管理職を通して関係機関に依頼する。

5月頃

- ・ 施設から内諾後、管理職とともに施設を訪問し、挨拶と打ち合わせを行う。訪問体験の場合、施設の下見も併せて行う。

<打ち合わせ事項>

実施形態、日程、時間、内容（設定保育、自由保育、外遊びの可否）、受け入れ可能な年齢（学級、組）、人数（相互）、写真撮影の可否と留意点、服装や持ち物、中学校側の注意点 など

<下見のポイント>

出入り口、保育室やトイレの場所、当日の集合場所、下靴の置き場所 など

6月頃

- ・ 教職員へ報告し、協力を依頼する。（時間割の調整、引率体制など）
- ・ 生徒及び幼児の移動手段を検討する。必要であればバス等の手配を始める。

9～10月頃

- ・ 生徒への事前指導を行う。 【プログラム6 参照】
- ・ グループ分けを行い、生徒にふれあいの計画を考えさせる。 【P42～46 参照】
- ・ 実施要項を職員会議に提案する。 【P37 職員会議資料 参照】
- ・ 職員会議後、実施依頼文を作成し、持参する。（1ヶ月前までに） 【P38 受け入れ先への依頼文 参照】
- ・ 受け入れ先と最終参加予定人数、活動内容、依頼事項など詳細な打ち合わせを行う。

11月

- ・ ふれあい体験の実施 【プログラム7・8 参照】

事後

- ・ 受け入れ先にお礼状と生徒の感想やまとめを持参する。
- ・ 体験の報告や写真等をホームページ等に掲載する場合、具体的に内容を示し、受け入れ先の了解を得る。
- ・ 受け入れ先から課題について意見を伺う。
- ・ 校内で担当者を中心に、関係教員と幼児ふれあい体験活動の総括、次年度への引継事項や、課題を整理する。

《資料》職員会議資料・実施要項（例）

「幼児ふれあい体験学習」実施要項

- 1 目的 幼児とのふれあいを通して、幼児への関心を深め、幼児との関わり方を工夫できる。
- 2 日時 平成 年 月 日（ ） （雨天決行 警報発令の場合は中止）
時 分から 時 分
- 3 場所 ○○中学校 体育館
- 4 中学校側参加者
中学生 ○年 ○○名
中学校職員 校長 教科担当（名 前） 補助教員（名 前）（名 前）
計○名
- 5 幼児側参加者
園 名 ○○幼稚園
園 児 年長クラス ○○名 ×○クラス 計○○名
幼稚園職員 園長 担任（名 前）（名 前）（名 前）
補助教員（名 前）（名 前） 計○名
交通手段 徒歩
- 6 内容 ・幼稚園児と中学生がペアを組んで活動する。
・自由遊びを通して、幼児が楽しめる空間作りや、安全への配慮を考えながら、関わり方を工夫し活動する。

<プログラム>

- 1) はじめのあいさつ
- 2) 自己紹介
- 3) グループでふれあう（グループ毎に行う）
（活動例） ・絵本の読み聞かせ
・しっぽとり
・飛行機とぼし
・なわとび など
- 4) 中学生よりお礼の言葉
- 5) 終わりのあいさつ（見送り）

- 7 その他

《資料》受け入れ先への依頼文（例）

平成 年 月 日

〇〇〇保育園長 様

〇〇〇立△△中学校
校 長（名 前）

保育園訪問実習のお願い

△△の候貴職におかれましては益々御健勝のことと存じます。

日頃は、本校教育活動に御理解と御支援をいただきましてありがとうございます。

さて、この度、技術・家庭科（家庭分野）の授業の一環として、訪問実習を下記の内容で実施したいと考えております。

つきましては、趣旨を御理解のうえ、本校生徒の訪問実習に御協力くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 目 的 幼児とのふれあいを通して幼児の発達や生活について関心を深めるとともに、自分の成長や家族、家庭についても理解を深め、幼児や家族に主体的に関わることができるようにする。
- 2 日 時 平成 年 月 日（ ） 時 分～ 時 分 ○年○組（名）
平成 年 月 日（ ） 時 分～ 時 分 ○年○組（名）
- 3 内 容 本校○年生が保育園の各組に分かれ、遊びなどの活動を体験する。
- 4 参加者 〇〇〇立△△中学校 第○学年生徒（△△名）
- 5 引率者 （名 前）（名 前） △月□日（名 前）
△月◇日（名 前）

家庭

総合

特別
活動

ふれあい体験学習に向けて

～計画と準備をしよう～

1. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○個別の課題設定 ○ふれあい体験の留意点	○今まで学んできたことを振り返り、実際にしたいこと、見たいこと、聞きたいこと等ふれあい体験の課題を考える。 ○課題の交流を行う。 ○服装等、安全にふれあい体験を行うために必要なことについて考える。 ○具体例を挙げて、対応方法を考える。 ○施設についての概略や当日の流れ、持ち物や服装などについて確認する。	○この課題にもとづいて、体験したり、まとめたりすることを意識させる。 ○課題を達成するためのイメージを持つよう個別に助言する。
○まとめ	○ふれあい体験学習にどのように取り組むのか、自分の言葉でまとめる。	

※ ふれあい体験において見聞きしたことはプライバシーに関わるため、口外しないこと、幼児の人権を尊重することをおさえる。

2. 授業実践のヒント

- ・手作りおもちゃを持参する場合は、発達年齢にあったもの、安全なもの、丈夫なものを考える。
- ・おもちゃの製作は夏季休業中の課題にしてもよい。その際、【プログラム3-4】を参考に安全で衛生的なおもちゃづくりについての指導が必要である。
- ・新聞紙や不要品などを活用して簡単にお金をかけずに製作することもできる。

3. 参考資料 ワークシート⑩

年 組 番：名前

(1) ふれあい体験の課題を記入しよう。

例) どのような遊びをしているか聞き、幼児の遊びの特徴を知る。
 多くの園児と話し、言葉の発達の個人差を感じる。
 幼児が物の取り合いをしたときの先生の対応を観察する。
 「好きな食べ物は何か？」できるだけ多くの幼児に聞き、幼児の好みの特徴を知る。
 施設設備で幼児の安全のために工夫されていることを見てくる。

(2) 留意点を記入しよう。

①服装は

②言葉遣いや行動は

③髪や爪は

④話すときは

⑤健康面は

⑥約束事は

⑦その他



(3) こんなときどうしますか。あなたがとる行動と言葉かけを考えて書こう。

①園児が人見知りをして逃げてしまう。

②おもちゃやクレヨンの取り合いを始めた。

③中学生に肩車をせがんできた。



(4) 訪問施設からの依頼事項

(5) 当日の持ち物

ワークシート⑩ 【記入例】

年 組 番：名前

(1) ふれあい体験の課題を記入しよう。

例) どのような遊びをしているか聞き、幼児の遊びの特徴を知る。
 多くの園児と話し、言葉の発達の個人差を感じる。
 幼児が物の取り合いをしたときの先生の対応を観察する。
 「好きな食べ物は何か？」できるだけ多くの幼児に聞き、幼児の好みの特徴を知る。
 施設の設定で幼児の安全のために工夫されていることを見てくる。

(2) 留意点を記入しよう。

- ①服装は 〈例〉 → 体操服
- ②言葉遣いや行動は → 丁寧な言葉遣い、人権を尊重した言動をする。
(子どもは何でも真似をします。時間をおいて真似をすることもあります。)
- ③髪や爪は → 長い髪はゴムでくくる。ヘアピンなどは使わない。
爪は短く切る。
- ④話すときは → 幼児と同じ目線で、ゆっくり、はっきり、わかりやすい言葉で話す。
- ⑤健康面は → 体調を整えておく。(咳やくしゃみが出るときはマスクを)
体調がすぐれないときは中学校の先生に伝えておく。(微熱 下痢など)
- ⑥約束事は → 安全第一で、絶対にけがをさせない。
- ⑦その他 → 困ったときは先生に相談する。優しい気持ちで接する。笑顔で接する。



(3) こんなときどうしますか。あなたがとる行動と言葉かけを考えて書こう。

①園児が人見知りをして逃げてしまう。

〈例〉
「よろしくね」「こんにちは」など優しく言葉をかける。興味のあることを一緒にする。しばらく観察し、できることを褒めてあげる。

②おもちゃやクレヨンを取り合いを始めた。

〈例〉
取り合っている幼児を離して落ち着かせる。「順番に使おうね」「分けて使おうね」など仲裁に入る。あれば代用品を渡す。

③中学生に肩車をせがんできた。

〈例〉
「肩車は危ないのでゴメンね」と言ってだっこをする。



(4) 訪問施設からの依頼事項

※ 打合せ時に、施設から生徒に伝えておいてほしいと言われたことは必ず伝える。

(5) 当日の持ち物

※ 手作りおもちゃやふれあい活動で使用するものなどを確認しておく。

《資料》中学生が考える活動の例

～中学生が考える活動の例～

静的な活動

① 手遊び

- ・中学生が、前に行う。
- ・幼児と一緒に手をもって行う。

例)「おべんとうばこのうた」「大きな栗の木の下で」「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」「幸せなら手をたたこう」「とんとんとんとんひげじいさん」など

② 絵本の読み聞かせや紙芝居

- ・幼児の年齢に合わせた絵本や紙芝居を事前に決め、読み聞かせの練習をして当日持っていく。
- ・代表生徒が前に行う。
- ・生徒一人に対して幼児が一人、または数名の小グループで行う。



③ 歌を歌う

- ・幼児が通常歌っている歌と一緒に歌う。事前に聞いておくとよい。

④ クイズやなぞなぞ

⑤ その他

- ・お弁当と一緒に食べる。(幼児とお弁当を比較したり、食べ物を通して会話したりする。幼児の食事について事前に学習しておく。)

動的な活動

① ゲーム

- ・幼児の年齢に合わせたゲームを考え、必要な場合には準備物を作り、持っていく。
- ・活動場所(室内、屋外)や、可能な活動(走る、ボールを投げるなど)について、事前に打ち合わせしておく。
- ・事前に、活動の内容や所要時間を施設に伝えておく。

例)「伝承遊び」「なんでもバスケット」「じゃんけん列車」「爆弾ゲーム」「ハンカチ落とし」「○×ゲーム」「宝探し」など

② 製作活動

- ・折り紙や季節の飾りづくりなど、作る物を事前に決めておき、一緒に製作する。
- * 時間内に完成できるように準備しておく。
- * 材料や用具が必要である。



③ リズム遊び

④ その他

- ・手作りおもちゃを持参し、一緒に遊ぶ。
- * おもちゃは中学生が持ち帰るのか、施設で使ってもらうのかを事前に決めておく。
- ・幼児の好きな遊びをする。(全員、グループ、個別)



《資料》 園児との遊びのヒント（例）

巨大双六



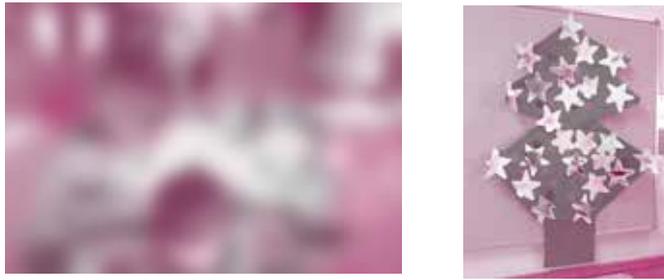
双六の要領で、サイコロを振り、出た目の数だけ、園児が進んでいく。マスは画用紙に「2つ進む」や「片足で立つ」など書いて作成する。サイコロも画用紙で大きめのものを作ってもよい。

新聞紙じゃんけん



中学生と園児がペアになり、新聞紙の上に乗る。じゃんけんをして、負けたら新聞紙を半分に折り、その上に乗る。それを繰り返して、新聞紙から、落ちたペアが負けとなる。

ツリーづくり



①葉と幹の部分を、学校で事前に作っておき、そこに貼る物の色塗りを園児が行う。

②園児が色塗りしたものを葉の部分に貼って完成させる。

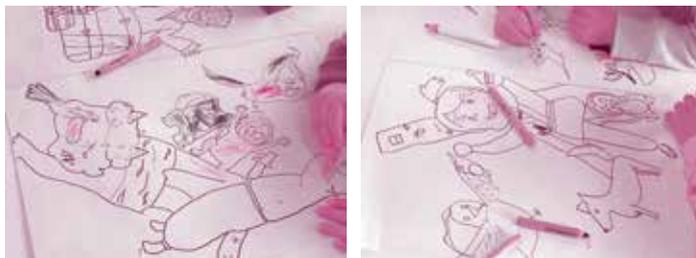
魚釣り



手作りパズル



塗り絵（紙芝居づくり）



事前に下絵を描いた画用紙を準備し、園児と色塗りをする。色を塗り終わったものを使って、紙芝居にしてもよい。自分たちでストーリーを考える等の工夫ができる。

紙コップけん玉



《資料》ふれあい体験学習の流れ（例）

① 出会い（2分）

- ・園児の前に並ぶ（司会進行・挨拶は中学生がする。）
 - * 2～5歳の園児に話すため、話し方・内容・言葉・表情などを工夫する。
 - * 保育所等の先生にも挨拶をする。

② 自己紹介（5分）

- ・名前だけでなく、好きな食べ物、幼児期に好きだった遊びなど一言付け加える。
- ・グループの中で順番を決め、全員が行う。
- ・幼児からの質問タイムを設けてもよい。（1～2名から程度）

③ アイスブレイキング（3～5分）

- ・緊張をほぐすことが目的である。
- ・歌や手遊び、簡単なクイズなど、その場でできる一緒に楽しめるものが良い。

④ 遊び（30分程度）

- ・静的な活動と動的な活動を組み合わせるとよい。【P 42 参照】
- ・事前の準備や練習が必要であるため、しっかりと計画させる。
 - * ゲーム等で景品を渡す場合は、順位や勝ち負けに関わらず、全員に渡すようにする。

⑤ お別れ（5分）

- ・お礼の挨拶をする。
 - ・次のような内容を計画してもよい。
- （例）歌を一緒に歌う。
- プレゼント（メッセージカード、首飾り、メダルなど）を全員に渡す。
- 握手、だっこ、ハイタッチ



【準備物（必要に応じて）】

- ・中学生の名札（画用紙やフェルトを動物や花の形に切ったり、イラストを描いたりしてもよい。）
- ・園児の名札（画用紙などに園児の名前を書いて、服の上に両面テープで貼る。など）
- ・プレゼント（カード、ワッペン、メダル、首飾り、折り紙で作ったものなど）
- ・ゲームや製作で使うもの
- ・手遊びや歌遊びで使うもの

ワークシート⑪

ふれあい体験学習の計画を立てよう

() 年 () 組 () グループ

《メンバー》

項目	内容	担当者
① 出会い	・園児の前に並ぶ。 ・代表者あいさつ	司会進行 () あいさつ ()
② 自己紹介	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 自己紹介の順番 </div>	
③ アイスブレイキング		内容を考える ()
④ 遊び	絵本の読み聞かせ [題名]	読む担当者 () ()
	活動1	説明 ()
	活動2	説明 ()
⑤ お別れ		司会進行 () あいさつ ()

ワークシート⑫

幼児の遊び道具を作ろう

年 組 番：名前

(1) 製作計画

○対象年齢・・・（ ）歳

○どんな遊びがしたいですか？

○どんな遊び道具を作りたいですか？

○主な材料は？

○安全面、衛生面で気を付けることは？

(2) 製作記録とふりかえり

月/日	製作計画	今日の製作を振り返って、気が付いたこと、考えたこと	チェック

(3) 製作を通して、どんなことに気が付きましたか。製作前と比べて、遊び道具についての考え方が変わったことや、わかったことをまとめよう。

家庭

特別
活動

総合

キャリア
教育

幼児ふれあい体験学習（実習）

～幼稚園・保育園・認定こども園を訪問しよう～

1. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標と学習内容の確認 ○ふれあい体験学習のスケジュールや場所等の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○注意事項、予定時間などを最終確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全面に関する指導を徹底しておく。
<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動場所に直接行くよう指示する。 ○自分が決めた「体験の課題」を意識してふれあう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい体験学習から考えたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめを時間内に取り組むことが難しい場合は、宿題にしてもよい。 (参考資料 P52 ワークシート⑬)



プログラム 8

家庭

特別活動

総合

キャリア教育

幼児ふれあい体験学習（実習）

～ようこそ中学校へ～

1. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認 ○ふれあい体験学習のスケジュールや場所等の確認	○注意事項、予定時間などを最終確認する。	○安全面に関する指導を徹底しておく。
○ふれあい体験学習	○幼児を出迎える。 ○幼児と楽しく安全にふれあう。	○事故防止のため、幼児と生徒の様子を、教師も観察しておく。 ○幼児の様子を、よく観察しながらふれあうように指導する。
○まとめ	○ふれあい体験学習から考えたことをまとめる。	○まとめを時間内に取り組むことが難しい場合は、宿題にしてもよい。 (参考資料 P52 ワークシート⑬)

2. 授業実践のヒント

- ・安全上、室内（体育館や柔剣道場など）が望ましい。
- ・事前に実施場所の安全確認をしっかりと行う。
- ・生徒も遊びに夢中になってしまうので、安全に関する指導を事前に徹底しておく。
- ・生徒の数と同じくらいの人数の幼児を招待できるように計画し、幼児と生徒ができるだけペアでふれあえるようにするとよい。

3. 準備物

- ・幼児ふれあい体験学習に必要なおもちゃ、絵本など
- ・幼児の外靴や、荷物を置く場所の掲示
- ・会場への案内掲示物
- ・幼児や引率者が使用できるトイレへの案内掲示物
- ・会場に飾り付けをしたり、音楽を流したりしてもよい。



4. 実施例

(1) タイムテーブル…体育館にて2時間連続（2・3時間目）で実施する場合

時刻	内容	場所
9:40	出欠確認、健康チェック、注意事項等の確認	教室
9:50	更衣、服装等点検、会場準備	体育館
10:10	出迎え 幼児学校到着（水分補給・トイレ）	
10:20	中学生と幼児が集合（整列）する。 あいさつ グループの確認・自己紹介	
10:30	ふれあい体験 それぞれの場所に分かれて、ふれあい体験を開始する。	
10:55	活動終了 中学生と幼児が集合（整列）する。 あいさつ（お礼の言葉）…中学生、（可能ならば）幼児各1名ずつ	
11:05	見送り	
11:10	会場片付け、更衣	
11:20 11:30	ふれあい体験学習のまとめ	教室

(2) 体育館等配置



・絵本コーナーや、折り紙コーナーにはマットやシートを敷いておき、自由に本を読んだり、折り紙で遊んだりできるようにしておく。



家庭

特別活動

総合

キャリア教育

幼児ふれあい体験学習 (ふりかえり)

1. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○体験レポートの作成 ○発表会	○個人で体験レポートや新聞を作成する。または、グループで壁新聞を作成する。 ○自分のまとめや感想を発表する。	○グループごとに学級全体の前で発表する場合、グループの全員が発言できるように役割分担させる。
○まとめ	○お互いのまとめや発表を聞いて、自分以外の気付きや学びを共有する。	

2. 授業実践のヒント

【新聞づくり】

《新聞の内容例》

① 自分の課題と課題に対するまとめや考察

感じたこと、見聞きしたこと等をもとにどう考えたか。

② 体験したこと

1つのことを詳しく書いても、複数のことを書いてもどちらでもよい。

③ 自分が作ったおもちゃで遊んだ感想

幼児の反応、うまくできたところ、改善するところなど

④ この体験をこれからの人生の中で、どのようなときにどう活かすことができるかを具体的に書く。



- ・項目を立て、それぞれに見出しを付け、その内容をまとめる。
- ・色ペンや折り紙を使ったり、絵や図を入れたりするなど、創意工夫をする。

3. 参考資料 ワークシート⑬

ふれあい体験学習振り返りレポート _____年 _____組 _____番：名前_____

日時	年 月 日 () : ~ :
自分の課題	
活動内容	

体験を通して分かったこと 気付いたこと

- (1) 幼児の体の特徴、動作や運動機能について
- (2) 幼児の言葉や気持ちの表し方について
- (3) 幼児の遊びの様子や人との関わりについて
- (4) 施設づくりについて (安全への配慮や工夫)
- (5) 先生の行動について

《自分の課題についての考察》

その他の実践事例

プログラム 10

家庭

保健

特別
活動

道徳

専門家から話を聞こう

～いのちの講話～

1. 本時の目標

専門家からの講話を聞き、いのちの大切さや生まれてくることが、産むことについて考えることができる。

2. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		
○講話	○講話を聞く。 ＜講話の例＞ ・思春期を迎えたからだ向き合い、自分も相手も大切にすること。 ・受精や妊娠、出産の仕組みや尊さを感じられること。 ・性に関する正しい知識を持ち、大人に相談する勇気の必要性を理解させること。 ・自分らしく生きることを考えること。	○講話の内容については生徒の実態などを考慮し、事前に学年や講師と打ち合わせを行う。 ○前もって依頼文を送付する。
○まとめの記入	○感じたことや質問したいこと等を記入する。	○感想文や質問をまとめたものを、お礼状とともに講師の先生に送付する。

3. 授業実践のヒント

- ・地域の人材（保健師、助産師、小児科医、産科医）を活用して、講話を依頼する。
- ・保健体育科、性に関する教育、人権教育、道徳等との連携を図る。
- ・学年の教師と協力し、講師の送迎、謝礼、準備物、配付物などの打ち合わせ及び役割分担を行う。

4. 準備物

- ・パソコン、プロジェクター、マイク、スクリーン、新生児人形 等

(連携先)

公益社団法人 京都府助産師会

T E L : 075 - 841 - 1521

E-mail : Kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp

医療財団法人 足立病院

T E L : 075 - 221 - 7431

U R L : <http://www.adachi-hospital.com>

* 地域や詳細等は要相談

プログラム11 赤ちゃんふれあい体験学習

プログラム 11-1

特別
活動

保健

赤ちゃんふれあい体験学習（事前学習）

1. 目標

妊娠や出産について正しく理解し、乳児との適切な関わり方について考えることができる。

2. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認		○赤ちゃんが苦手だと感じている生徒にも、ふれあい体験をすることの大切さを知らせる。
○命の誕生	○命のなりたちについて振り返る。 ○胎児がお腹の中でどのように成長していくかを知る。 ○妊娠の期間や、どのように胎児の体の大きさや動きが変化していくのか知る。	○卵子、精子、受精などについて、保健体育科の学習と関連させて確認する。 ○胎児がお腹にいる映像を見せたり、心音を聞かせたりするなど、具体的にイメージできるようにする。
○赤ちゃんふれあい学習の内容や注意点の確認	○注意点を確認する。 1 当日までの体調管理（爪切り等も） 2 直前の手洗い、手指消毒 3 服装、頭髪等の身だしなみ ○当日の進行について確認する。 ・赤ちゃんの体調によって、急に変更する場合もあるので、その際には臨機応変に対応できるようにする。 ○来ていただく協力者への質問を考える。	

赤ちゃんとのふれあい体験学習

・市町村の社会福祉協議会や、各自治体の子育てに関する部署、NPO等との連携で実施することが多いです。赤ちゃんとの交流や妊婦疑似体験スーツの体験等、内容は連携先との事前の打ち合わせで確認してください。

会場イメージ



・実施場所には、転倒時の安全対策のために、カーペットやフロアマットを敷くのが望ましい。

3. 参考資料 ワークシート⑭

赤ちゃんふれあい体験学習

年 組 番：名前

日時	月 日 ()	場所	
内容	・グループに分かれ、赤ちゃんとふれあったり、妊婦疑似体験スーツを着たりする体験を行う。 ・子育て中の方や妊婦さんと話をする。赤ちゃんに関する資料などを、見せてもらう。		
	・子育て中の方や妊婦さんから、子育てや妊娠に関する話を聞く。質問をする。		

授業の流れと注意事項

当日までの体調管理がとても大切です！！

- ① 体操服に着替える。髪の長い人は必ず後ろで一つにまとめる。手にはゴムなど何もつけない。
- ② 着替え終わったら、すぐに集合する。(手洗いをして、入り口のアルコールで手を消毒してから入室する。)
- ③ 全体で、保健師さんから抱っこの仕方の説明を聞く。
- ④ グループに分かれて交流する。(赤ちゃんの体調により、変更になる場合もあるので、指示に従って動くこと。)

～ 休み時間 ～

- ⑤ 全体で集合して、子育てや妊娠に関する話を聞く。
- ⑥ 質問
- ⑦ お礼の言葉 (代表)
- ⑧ まとめ、アンケートを記入する。

赤ちゃんとの交流のポイント

～泣かれてもめげない！～

赤ちゃんは泣くものです。初めての人を見て、不安になったり人見知りしたりするのも成長の証。あなたを嫌いなわけではありません。

～節度をもって積極的に関わろう！～

中学生のためになるのなら・・・という想いで集まってもらっています。積極的に関わることが何よりの恩返し。途中、赤ちゃんの様子次第で変更があるかもしれません。予定と違う動きになっても、臨機応変に対応してください。

子育て中の方、妊娠中の方に聴きたいこと、質問を考えよう！

子育てに関すること、妊娠に関することなど、聴いてみたいことを考えておきましょう。話の中に出てこなかったときは、自分たちから質問してください。

特別活動

赤ちゃんふれあい体験学習（実習）

1. 目標

赤ちゃんやその保護者との交流を通して、子育ての喜びや苦労について理解し、自分の将来の生き方について考えることができる。

2. 展開例

指導内容	学習活動	指導上の留意点
○本時の目標と学習内容の確認	○手洗い、消毒を行い、身だしなみを整える。 ○保健師から、赤ちゃんの抱っこの仕方について説明を受ける。	○体調不良の生徒がいないか確認する。 ○赤ちゃん人形を使って説明する。
○命の誕生	○グループ毎に、親子と交流する。 ・お互いの自己紹介をする。 ・赤ちゃんにふれたり、抱っこしたりして交流する。 ・協力者が持って来た資料の説明を聞く。母子健康手帳（親子健康手帳）、胎内のエコー写真等 ○妊娠しているときの苦労や、生まれてきたときの保護者の気持ちについて知る。 ○子育ての喜びや苦労について知る。 ○話やふれあいを通して、疑問に思ったことや知りたいことを質問する。	○事故防止や安全面から、教職員やスタッフが、1グループに1人つくように配置する。 ○赤ちゃんになじめない生徒や戸惑っている生徒がいれば、声をかけて参加を促す。 ○積極的に質問するように、事前に指導しておく。
○まとめ	○ふれあい体験学習から考えたことをまとめる。	

3. 準備物

【学 校】 消毒液、ござ、カーペット、授乳室 【連携先】 妊婦疑似体験スーツ、新生児人形
【協力者】 エコー写真や母子健康手帳（親子健康手帳）などの赤ちゃんに関わる資料を当日持参してもらう。

4. 実施にあたって

- ・会場やトイレ、授乳場所の衛生面や安全面について整備を行い、協力が者が安心して参加できるように配慮する。
- ・日時の設定は、感染症の流行期は避ける。感染症が発生している場合には、実施しない場合もある。
- ・赤ちゃん抱っこ指導は、事前学習で行ってもよい。
- ・連携先との事前打ち合わせの時期・内容（3回程度）

（半年前 協力者の募集方法・授業の意義を共有・日程調整
3ヶ月前 内容の検討・会場、授乳場所、トイレ等の確認
1ヶ月前 当日の協力者の確認・流れの確認・注意事項等の最終確認）

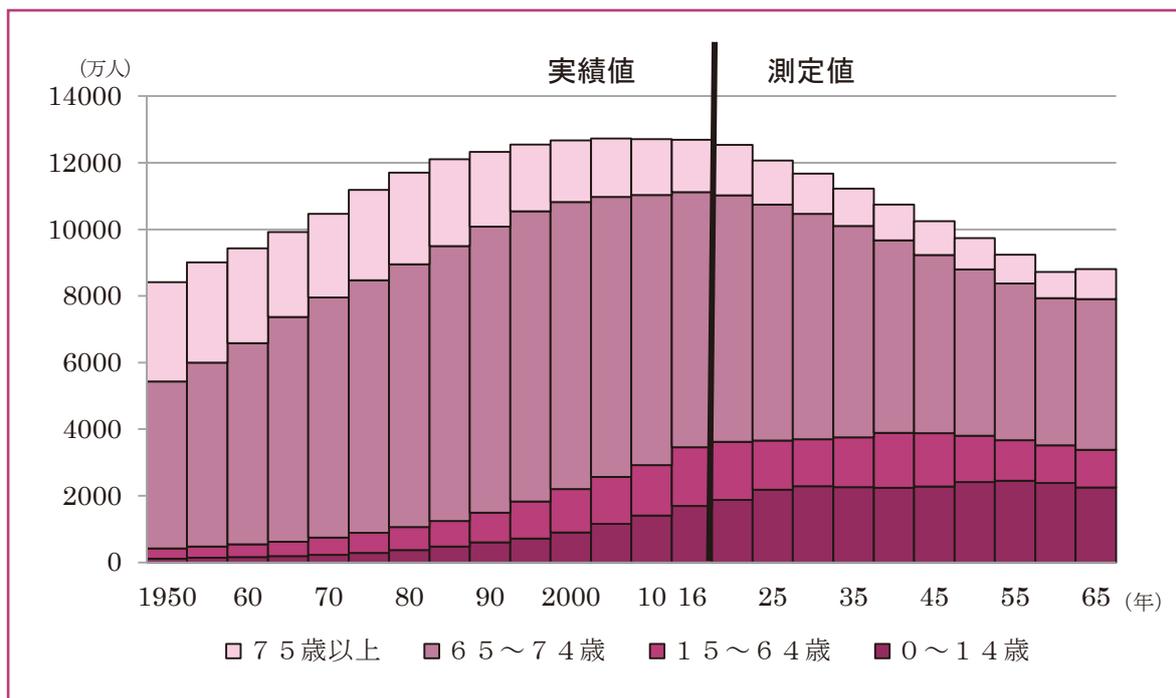


資料編

1	国の各種統計資料	58
2	京都府の各種統計資料	62
3	参考HPアドレス一覧	65

1 国の各種統計資料

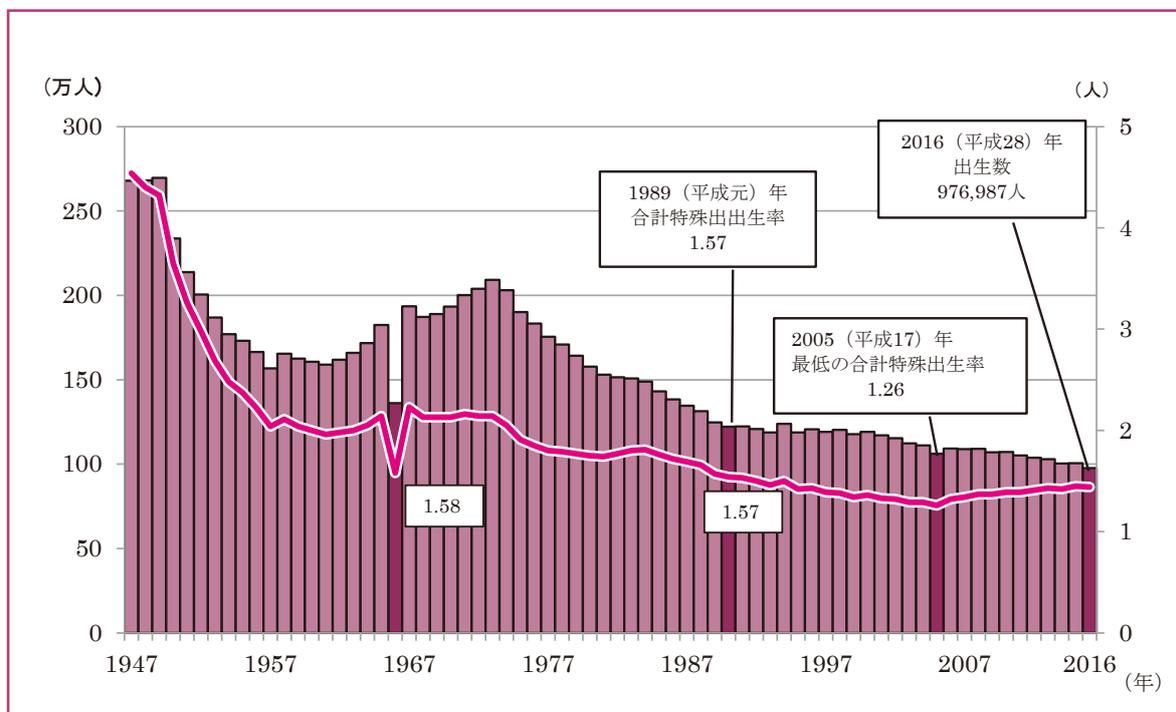
(1) 総人口及び人口構造の推移と見通し



「平成 29 年版 少子化社会対策白書」（内閣府）をもとに作成

(2) 出生数等

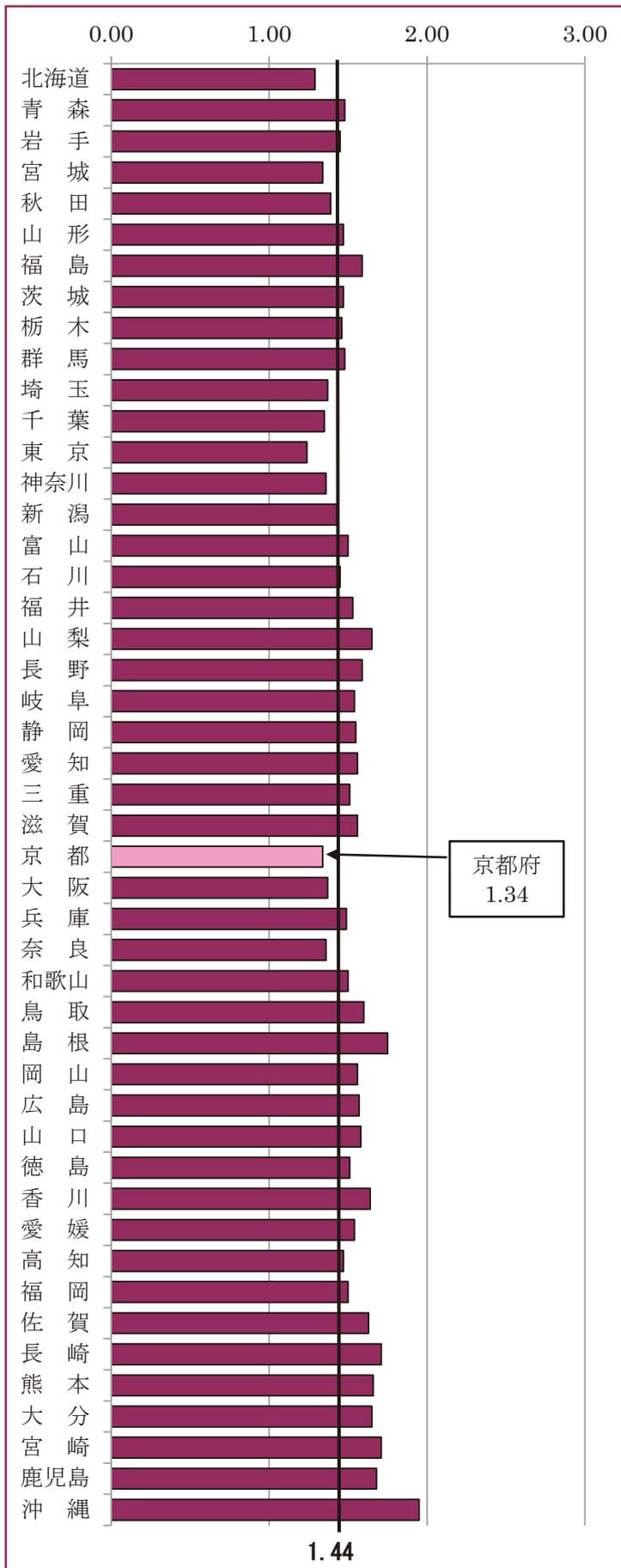
① 出生数及び合計特殊出生率の年次



合計特殊出生率 … 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、1人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

「平成 29 年版 少子化社会対策白書」（内閣府）をもとに作成

② 都道府県別合計特殊出生率

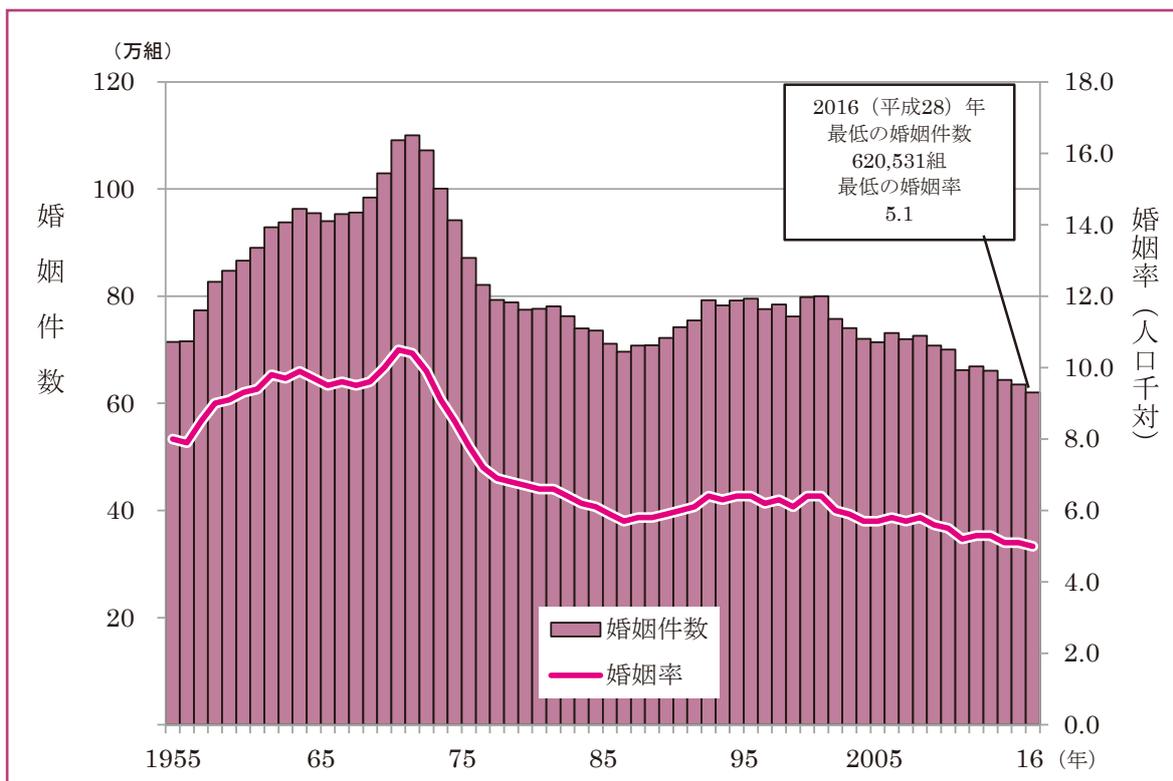


「平成28年版 少子化社会対策白書」(内閣府)、
「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

都道府県	2016年	2015年	増減
北海道	1.29	1.31	▲ 0.02
青森	1.48	1.43	0.05
岩手	1.45	1.49	▲ 0.04
宮城	1.34	1.36	▲ 0.02
秋田	1.39	1.35	0.04
山形	1.47	1.48	▲ 0.01
福島	1.59	1.58	0.01
茨城	1.47	1.48	▲ 0.01
栃木	1.46	1.49	▲ 0.03
群馬	1.48	1.49	▲ 0.01
埼玉	1.37	1.39	▲ 0.02
千葉	1.35	1.38	▲ 0.03
東京	1.24	1.24	0.00
神奈川	1.36	1.39	▲ 0.03
新潟	1.43	1.44	▲ 0.01
富山	1.50	1.51	▲ 0.01
石川	1.53	1.54	▲ 0.09
福井	1.65	1.63	▲ 0.10
山梨	1.51	1.51	0.14
長野	1.59	1.58	0.01
岐阜	1.54	1.56	▲ 0.02
静岡	1.55	1.54	0.01
愛知	1.56	1.57	▲ 0.01
三重	1.51	1.56	▲ 0.05
滋賀	1.56	1.61	▲ 0.05
京都	1.34	1.35	▲ 0.01
大阪	1.37	1.39	▲ 0.02
兵庫	1.49	1.48	0.01
奈良	1.36	1.38	▲ 0.02
和歌山	1.50	1.54	▲ 0.04
鳥取	1.60	1.65	▲ 0.05
島根	1.75	1.78	▲ 0.03
岡山	1.56	1.54	0.02
広島	1.57	1.60	▲ 0.03
山口	1.58	1.60	▲ 0.02
徳島	1.51	1.53	▲ 0.02
香川	1.64	1.63	0.01
愛媛	1.54	1.53	0.01
高知	1.47	1.51	▲ 0.04
福岡	1.50	1.52	▲ 0.02
佐賀	1.63	1.64	▲ 0.01
長崎	1.71	1.67	0.04
熊本	1.66	1.68	▲ 0.02
大分	1.65	1.59	0.06
宮崎	1.71	1.71	0.00
鹿児島	1.68	1.70	▲ 0.02
沖縄	1.95	1.96	▲ 0.01
全国	1.44	1.45	▲ 0.01

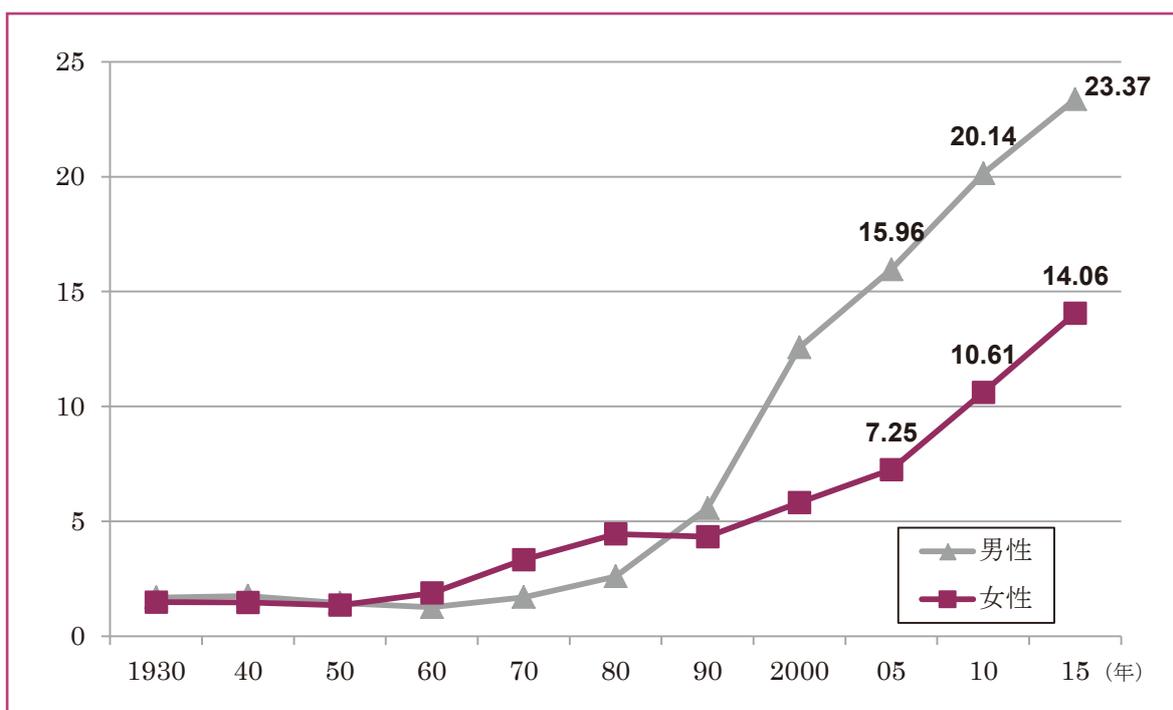
(3) 結婚をめぐる動向

① 婚姻件数及び結婚率の年次推移



「人口動態統計」(厚生労働省) をもとに作成

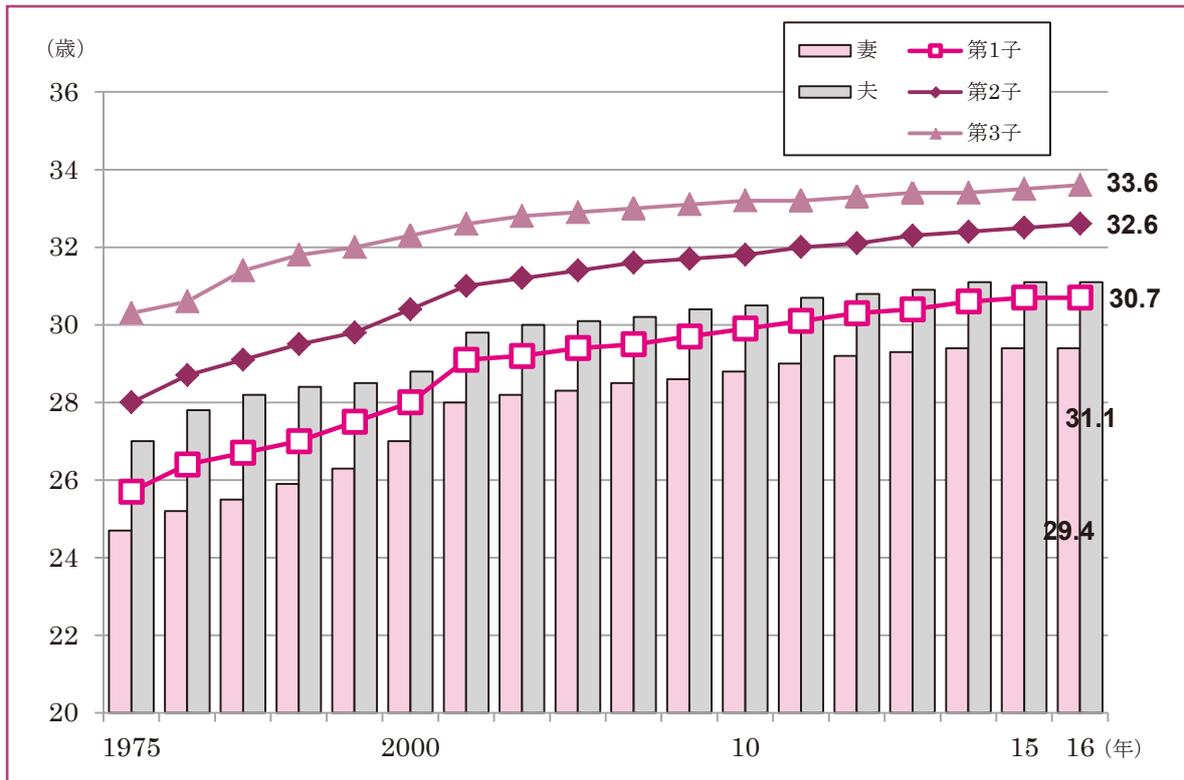
② 生涯未婚率の推移



「平成28年版 少子化社会対策白書」(内閣府) をもとに作成

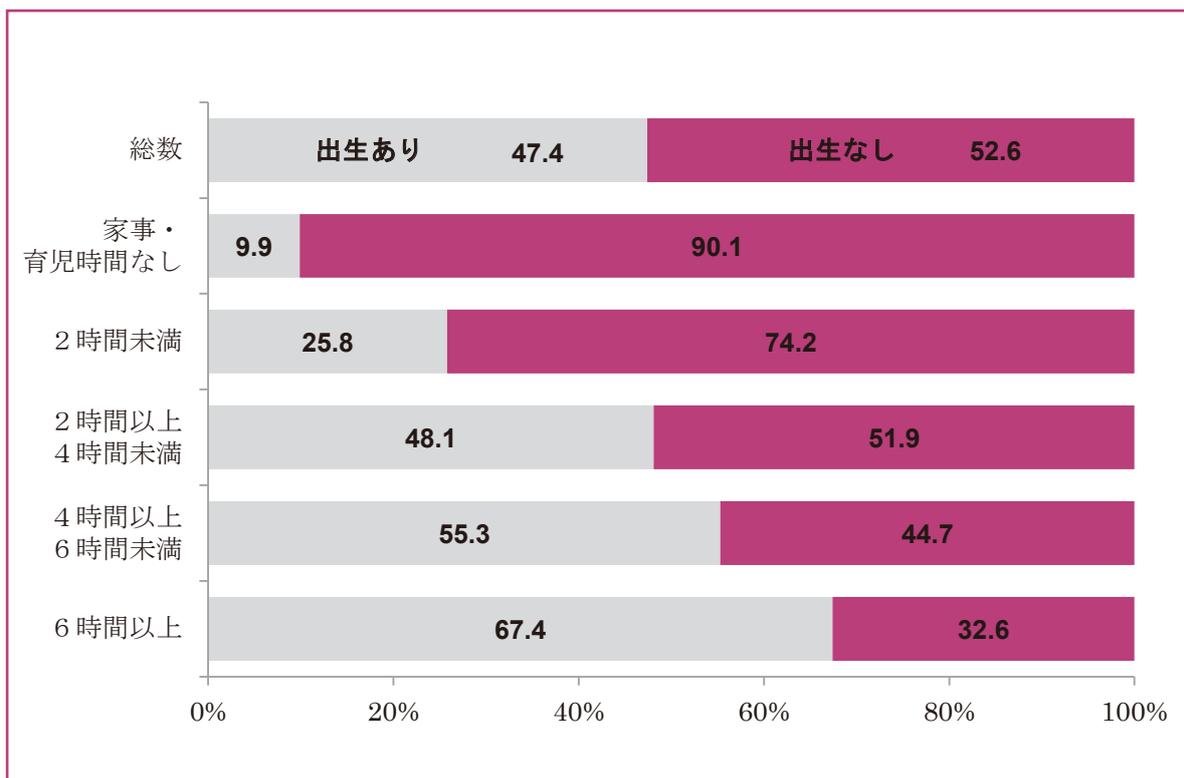
(4) 出産をめぐる動向

① 平均初婚年齢と出生順位別母の平均年齢の年次推移



「平成 29 年版 少子化社会対策白書」(内閣府) をもとに作成

② 夫の休日の家事・育児時間別にあつた、この8年間の第2子以降の出生状況



「第9回 21世紀成年者縦断調査」(厚生労働省) をもとに作成

2 京都府の各種統計資料

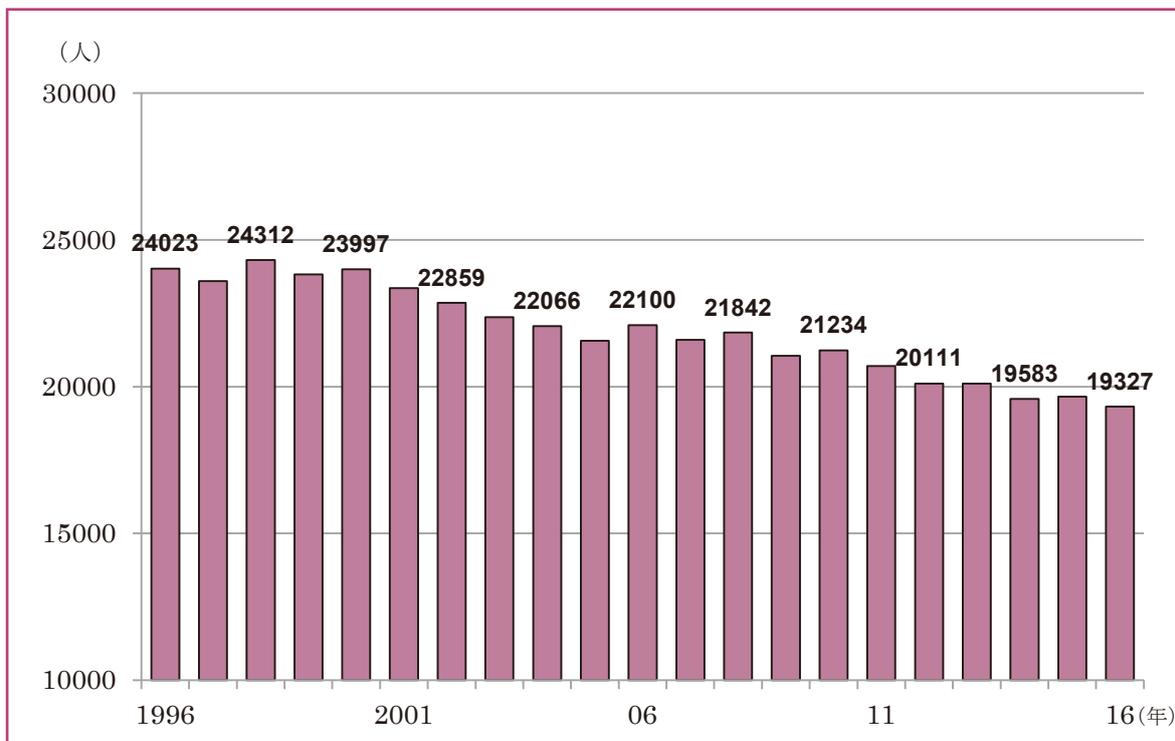
(1) 京都府の人口推移



「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

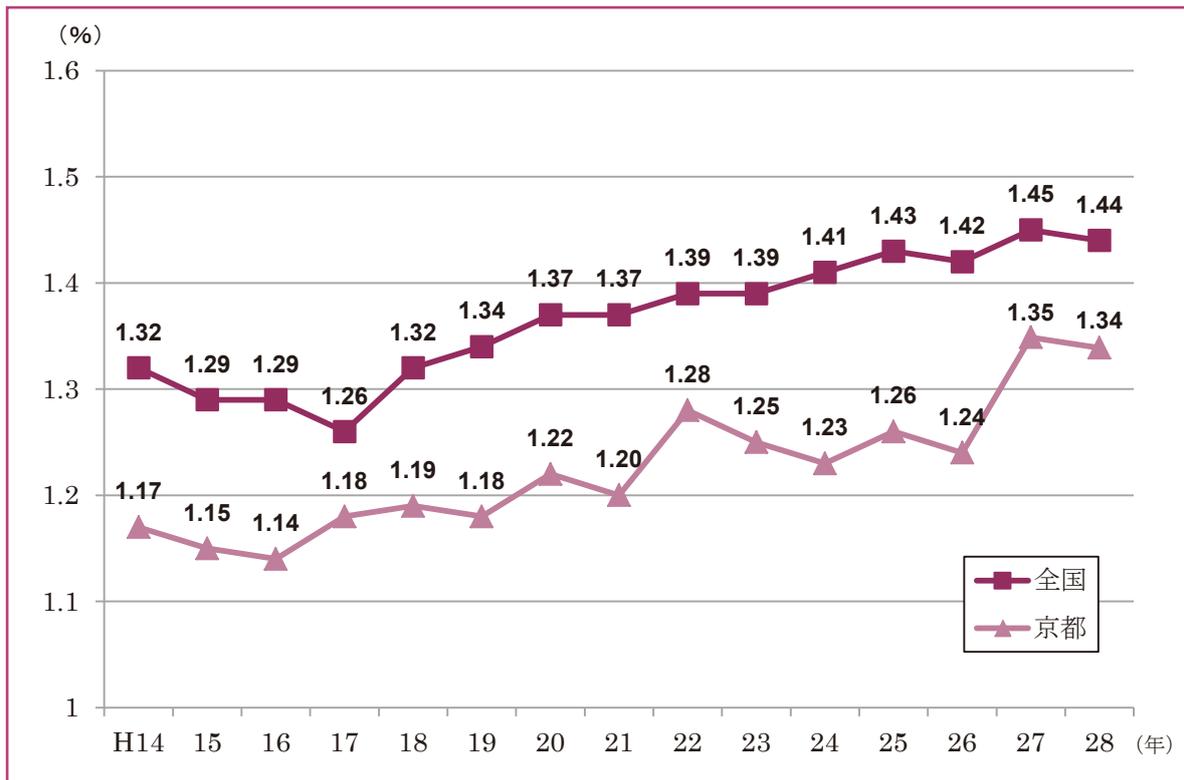
(2) 出生等の推移

① 京都府の出生数の推移



「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

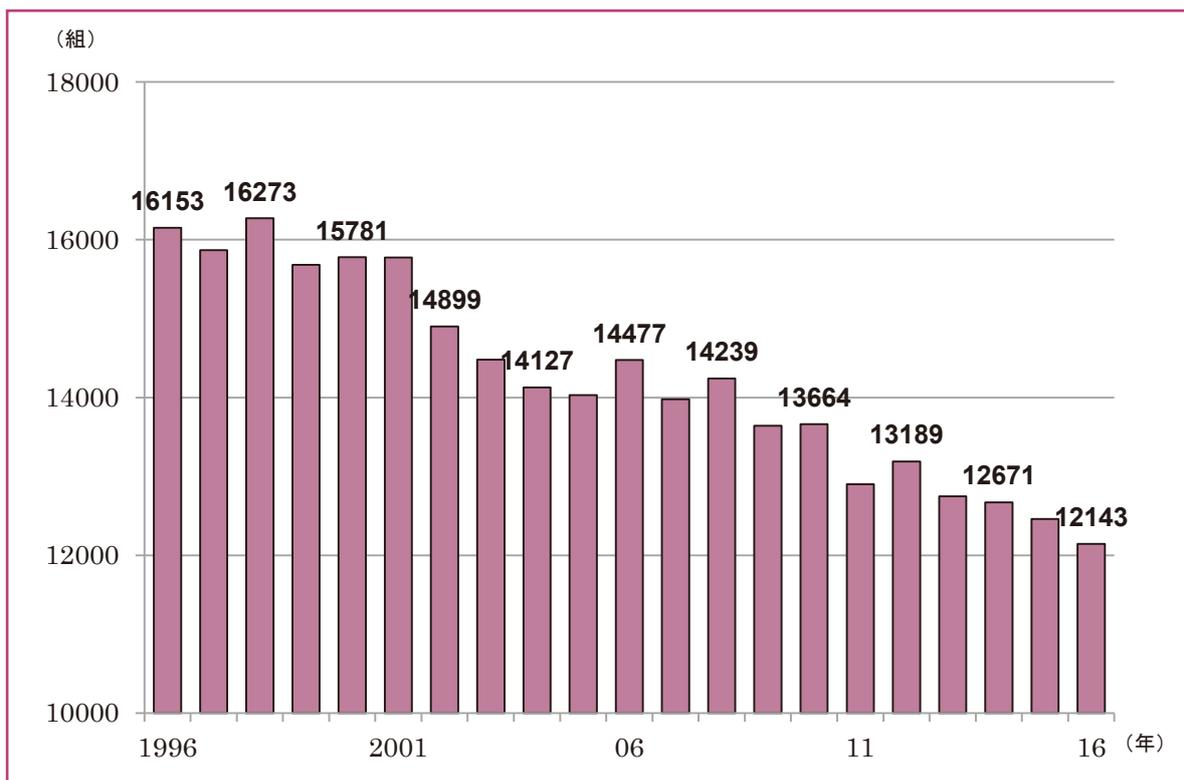
② 京都府及び全国の合計特殊出生率



「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

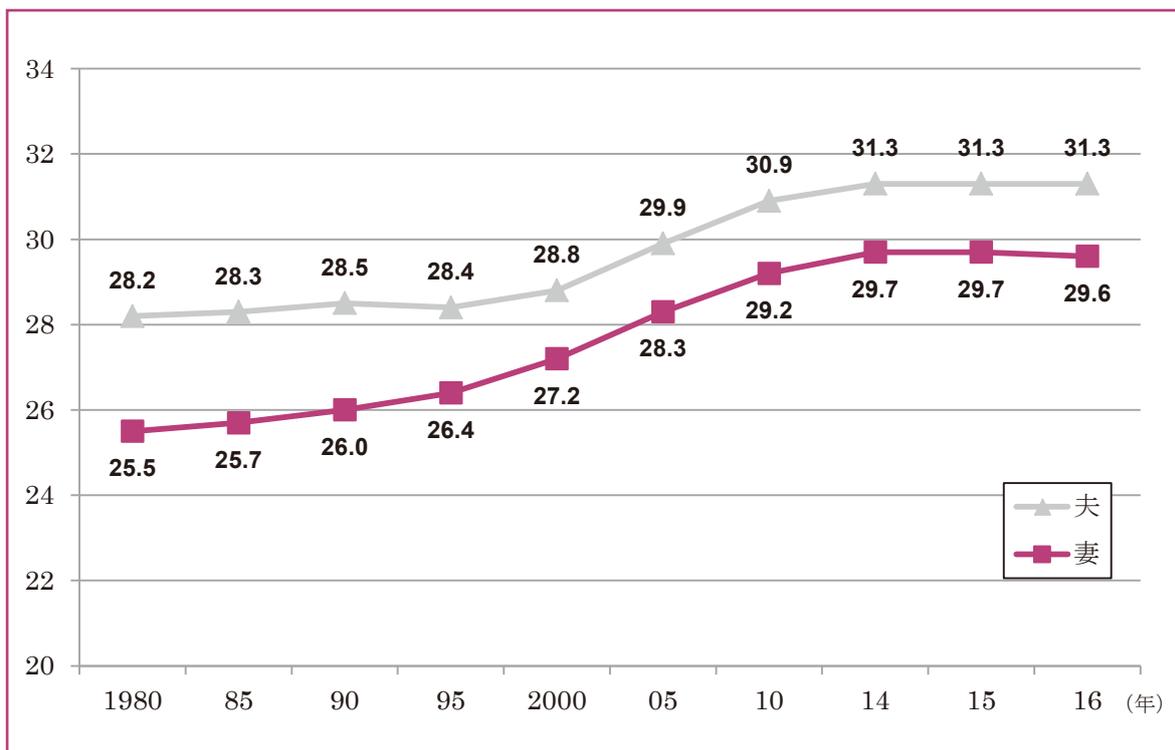
(3) 結婚をめぐる動向

① 京都府の婚姻件数の推移



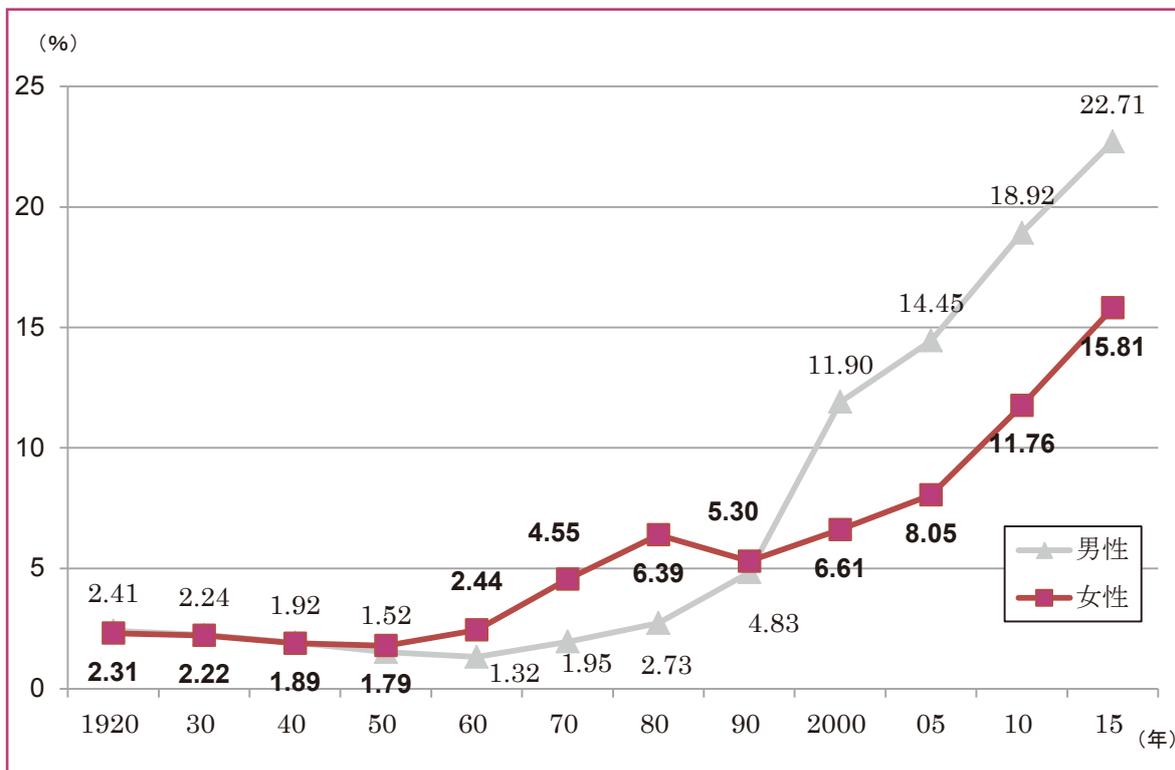
「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

② 京都府の平均初婚年齢の推移



「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

③ 京都府の生涯未婚率の推移



「人口動態統計」(厚生労働省)をもとに作成

3 参考HPアドレス一覧

内閣府 『少子化対策』

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/index.html>

少子化対策に関する施策や取組、子育て支援制度について調べることができる。

厚生労働省 『子ども・子育て』

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo>

子ども・子育て支援や、職場における子育て支援について調べることができる。

厚生労働省 『厚生労働統計一覧』

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>

厚生労働省が行っている統計調査結果（人口動態調査等）を調べることができる。

京都府 『子ども・青少年』

<http://www.pref.kyoto.jp/kenko/kodomo/index.html>

京都府内の子育て等に関する情報を調べることができる。

本書の刊行に寄せて

少子化が進む日本において、出生数は減少傾向をたどり、将来を担う子どもの数が少なくなっています。出生数は、1975（昭和 50）年に 200 万人を割り込み、2016（平成 28）年にはさらに半減して 100 万に満たない状況です。合計特殊出生率は、2005（平成 17）年に 1.26 と底をうち上昇に転じています。2016（平成 28）年には 1.44 まで漸増していますが、出生率の母数となる 15 歳から 49 歳までの女性の数が減っているため、出生率が上昇しても出生数の増加とならないようです。

京都府をみますと、2016（平成 28）年の合計特殊出生率は、全国平均を下回る 1.34 で、他の高い県と比べるとさらに向上の余地があります。では、近年の出生率が低下している原因はどのように考えられているのでしょうか。厚生労働省の少子化対策推進基本方針では、主な要因として、晩婚化や未婚率の上昇があると指摘されています。女性が社会の中で活躍し、職場での活動に重きがおかれる中、核家族化が進み、祖父母などの子育ての見本と接する機会や子育ての支援が減少しています。

京都府教育委員会では、2016（平成 28）年に高校生を対象とした「子育て学習プログラム」を作成し、教育の現場で実施されている点は高く評価されます。今回、さらに中学生を対象として「幼児ふれあい学習プログラム」を作成し、思春期から青年期のアイデンティティ形成において大切な時期に、授業の中で幼児と触れ合う体験を持たせようとする点は、育児に関する学びとして非常に重要な視点であると思います。

今日、女性が社会の中で仕事と子育てを両立しやすい環境を築くことは喫緊の課題です。他方、人生設計を模索する中学生にとって、乳幼児を身近な存在として、子育てに対する関心を高めることも大切な課題です。この二つが両輪となり、少子化を改善していくことができると思います。このプログラムは、後者を促進する学びの場となります。近年の教育課程においては、高い水準の技能を修得し、高度化した社会に適應する生徒を育成していますが、家庭の中で培われる家族力のひとつともいえる子育てに関する知識は、日常の生活で修得する機会が減っています。とくに自らの生き方を模索する時期に、社会の中での仕事に目を向けるだけでなく、家庭での生活力の大切さを感じ、それを体験する授業は、現在の社会で必要とされていると思います。

中学校技術・家庭（家庭分野）の授業を中心にして、まず、第1章で、家族や家庭の役割を学び、幼児期からの成長を振り返る機会をもつことは、人と人の関係の大切さを学ばせ、人格形成に良い影響を与えることと思います。向社会性の発達を促進するためにも有効であると考えられます。また、幼児の遊び方を考えることにより、子どもとのかかわり方のスキルを獲得することになります。幼児を世話するとき、遊びは欠かすことのできないかかわりです。さらに、プログラム 4 での子育ての支援の学びは、子どもに関する社会システムの仕組みの学びであり、支援をするときだけでなく、支援を受けるときの術を知ること、将来に子育てをするときの不安や負担感を減じる助けとなることでしょう。また、幼児を視点にして、家庭内での安全に関して考える時間も取り入れられ、安全で安心な生活を送るために良いポイントであると思います。

後半のプログラムの第2章では、保育園等で幼児と実際に触れ合う機会をつくることで、乳幼児に関する知識が単なる知識に留まらず、活きた知識となり、子育ての基本の感覚を身につける助けとなります。ふれあい体験では、きょうだい数などの家族構成によって個人差はあるものの、かかわり方における最初のぎこちなさは徐々に低減していくことと思います。

この学習プログラムを通して得られる知識と体験は、以前は大家族の中で、家族構成員から教えられ、身についた子育ての知識と関心を高めていくことになるとと思います。京都府における中学校で、生活力を高めるひとつの試みとして、よく構成されており、大いに成果が期待されます。

同志社大学心理学部
教授 内山 伊知郎

幼児ふれあい学習プログラム 作成委員

一ノ瀬 明 美	福知山市立桃映中学校 校長
寺 本 愛	京都府立北桑田高等学校美山分校 教諭
北 村 章 子	城陽市立南城陽中学校 教諭
谷 口 智 子	舞鶴市立白糸中学校 教諭
酒 井 亜樹奈	京丹波町立丹波ひかり小学校 養護教諭
吉 本 直 子	京都府丹後教育局 社会教育主事兼指導主事
宇 野 佳 代	京都府総合教育センター北部研修所 研究主事兼指導主事
奥 平 美 香	京都府教育庁指導部高校教育課 指導主事

作成協力

「子育て学習プログラム」推進委員会

城陽市立南城陽中学校

京丹波町立和知中学校

福知山市立桃映中学校

事務局

京都府教育庁指導部社会教育課

本書に関わる著作権は京都府教育委員会にあります。



京都府教育委員会

平成 30 年 3 月発行